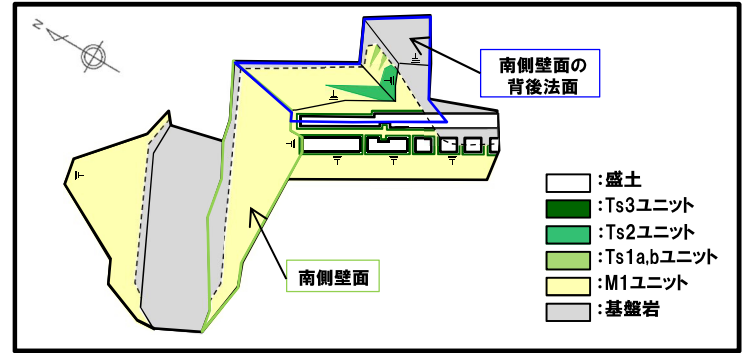
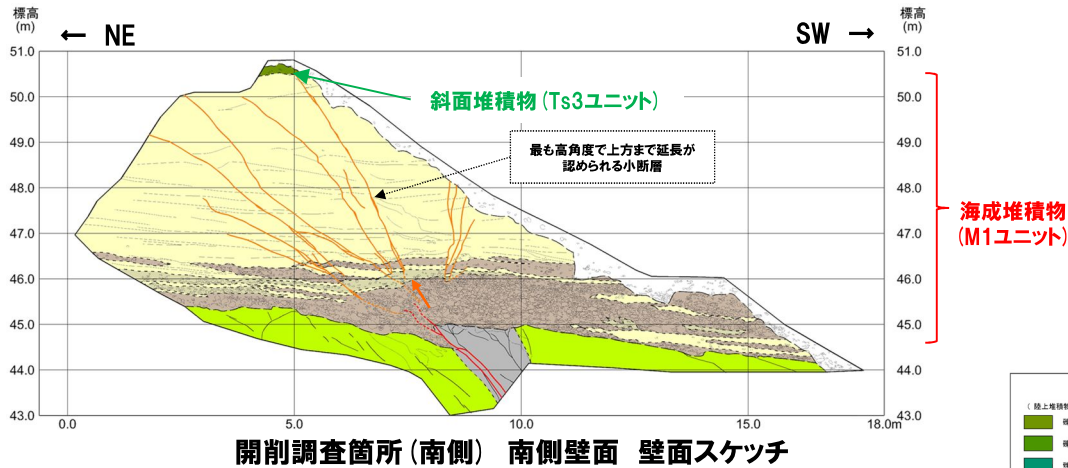


(1)地層区分及びユニット区分

①露頭観察結果(堆積相観察)(4/4)

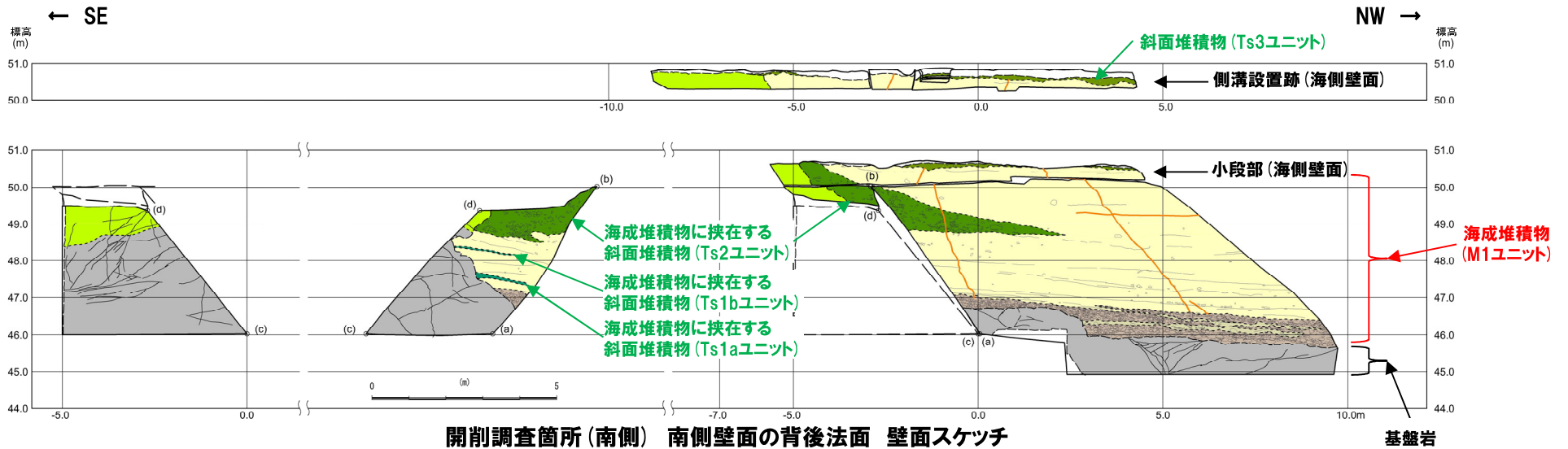
一部修正(R2/8/7審査会合)



開削調査箇所(南側)平面模式図

【凡例】

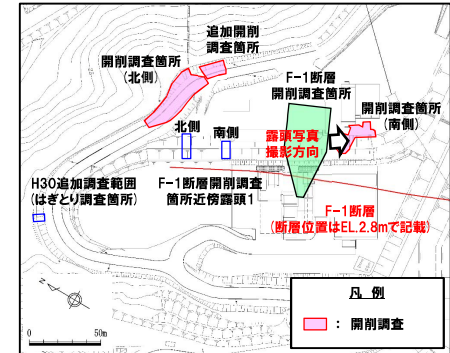
(陸上堆積物)	(海成堆積物)	(基盤岩)
硬質シルト混じり砂	砂礫	火山礫凝灰岩
硬質シルト混じり砂	砂	砂質凝灰岩
砂質砂	砂	
断層	小断層	大区分 (地層境界)
崖線・地割線		細区分 (地層境界)
礫		地層境界



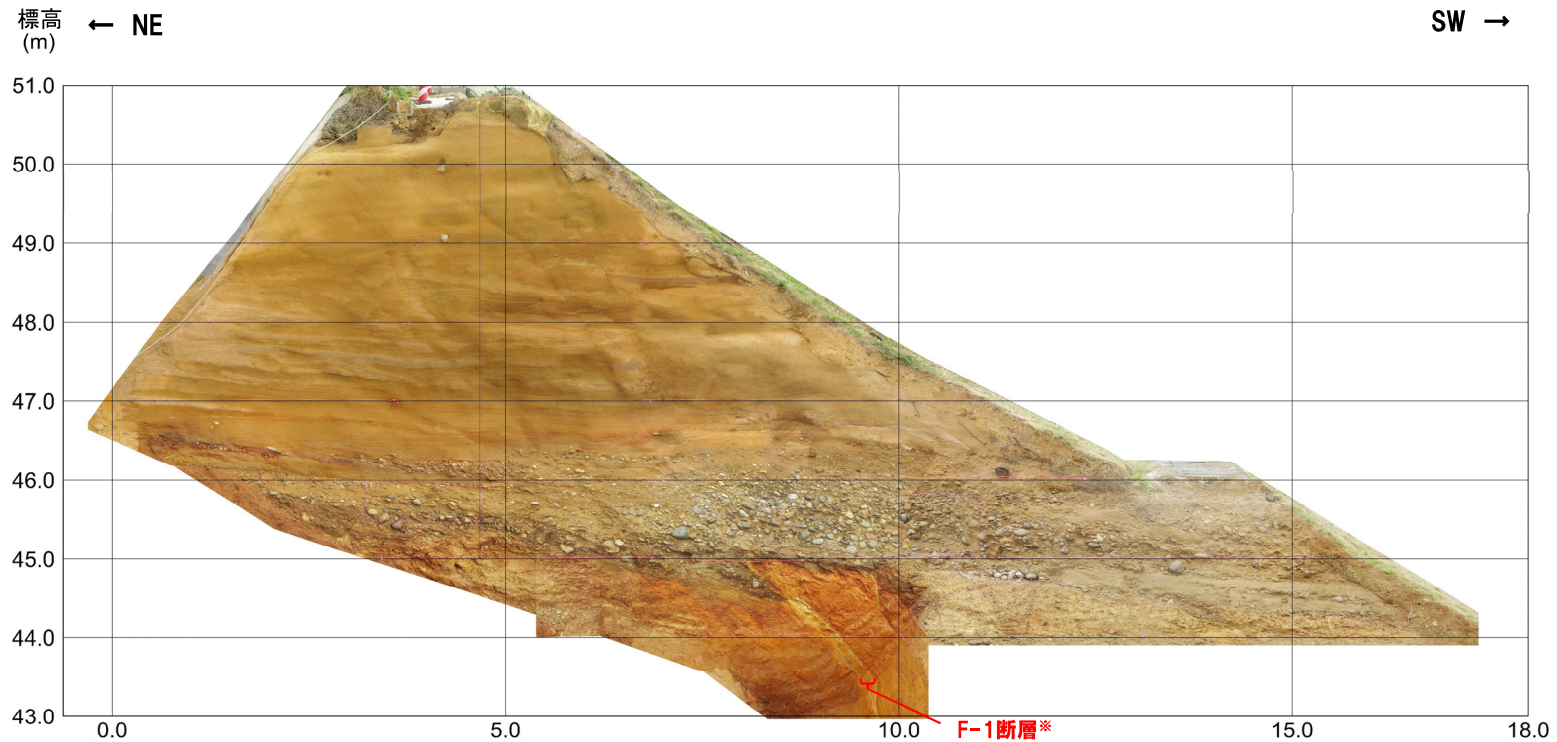
(1)地層区分及びユニット区分

①-1 露頭観察結果(堆積相観察) - 南側壁面(1/2) -

一部修正(R1/11/7審査会合)



調査位置図



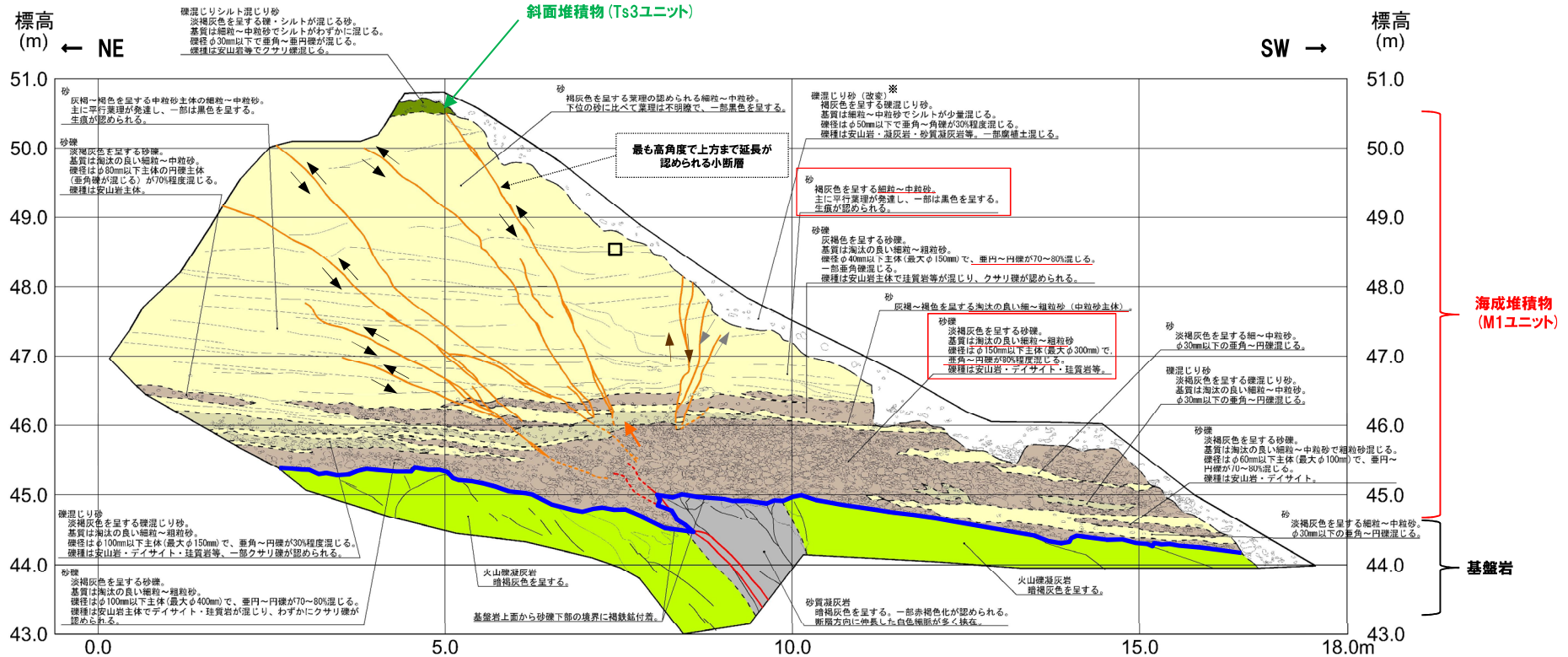
開削調査箇所(南側) 南側壁面写真

※当該断層については、後述する5.2.1章において、F-1断層に認定している。

(1)地層区分及びユニット区分

①-1 露頭観察結果(堆積相観察) - 南側壁面(2/2) -

一部修正(R1/11/7審査会合)



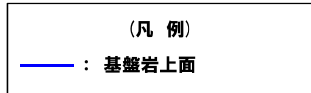
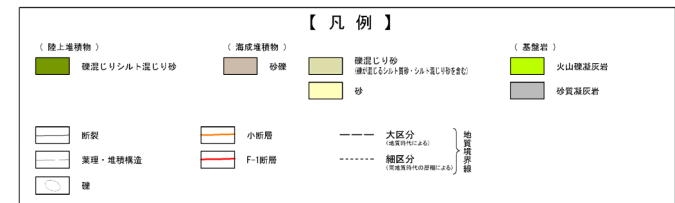
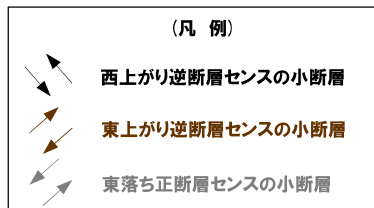
開削調査箇所(南側) 南側壁面スケッチ

□ 生痕確認位置(当該箇所の写真は補足説明資料1.1章参照)

各種観察結果整理表(開削調査箇所(南側))

地層	層相	代表的な記事
斜面堆積物	礫混じりシルト混じり砂	・淡褐色を呈する ・垂角～亜円礫、クサリ礫混じる ・礫は安山岩等 ・基質は細粒砂～中粒砂、シルト混じる
	砂	・灰褐色～褐色を呈する ・薬理が発達し、一部は黒色を呈する ・生痕が認められる
海成堆積物	砂	・淡褐色を呈する ・垂角～円礫 ・礫は安山岩主体、デイサイト、珪質岩等 ・基質は淘汰の良い細粒砂～粗粒砂
	砂礫	・暗褐色を呈し、一部赤褐色化が認められる
基盤岩	砂質凝灰岩	・暗褐色を呈する
	火山凝灰岩	・暗褐色を呈する

※当該層は、法面保護工(鋼製法枠工)施工後に緑化のために盛立てた客土である。客土には、敷地造成前の表土を用いている。

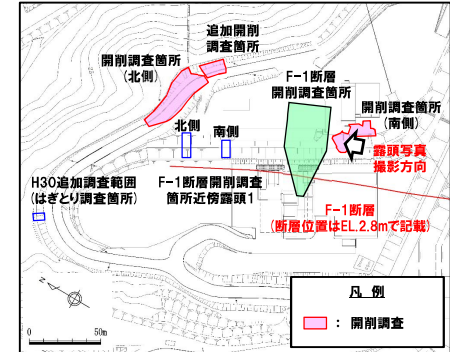




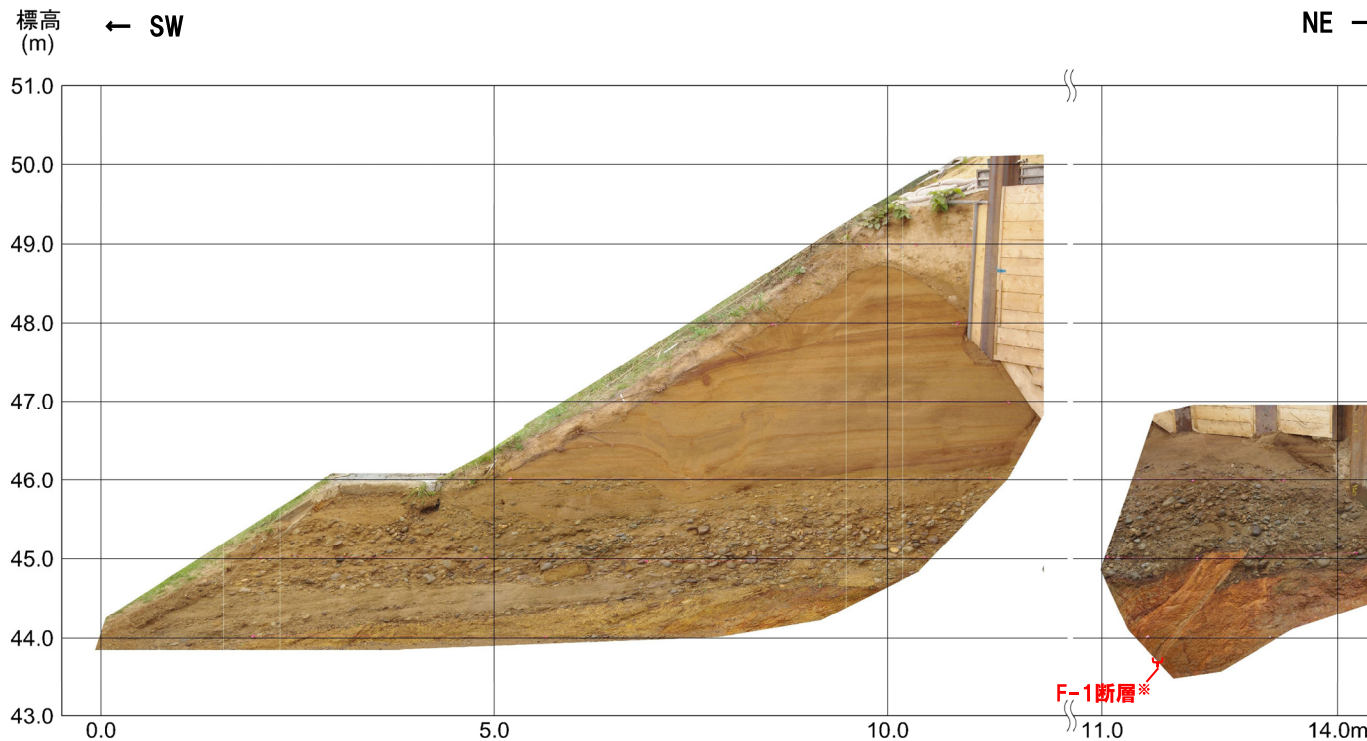
(1)地層区分及びユニット区分

①-2 露頭観察結果(堆積相観察) -北側壁面(1/2) -

一部修正(R1/11/7審査会合)



調査位置図



開削調査箇所(南側) 北側壁面写真

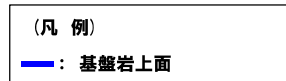
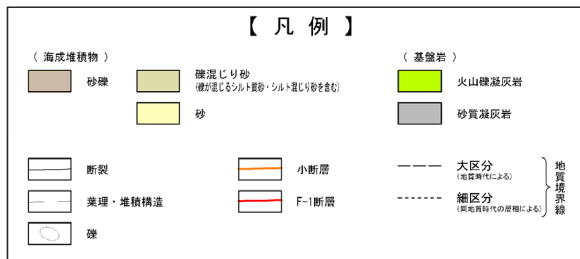
※当該断層については、後述する5.2.1章において、F-1断層に認定している。



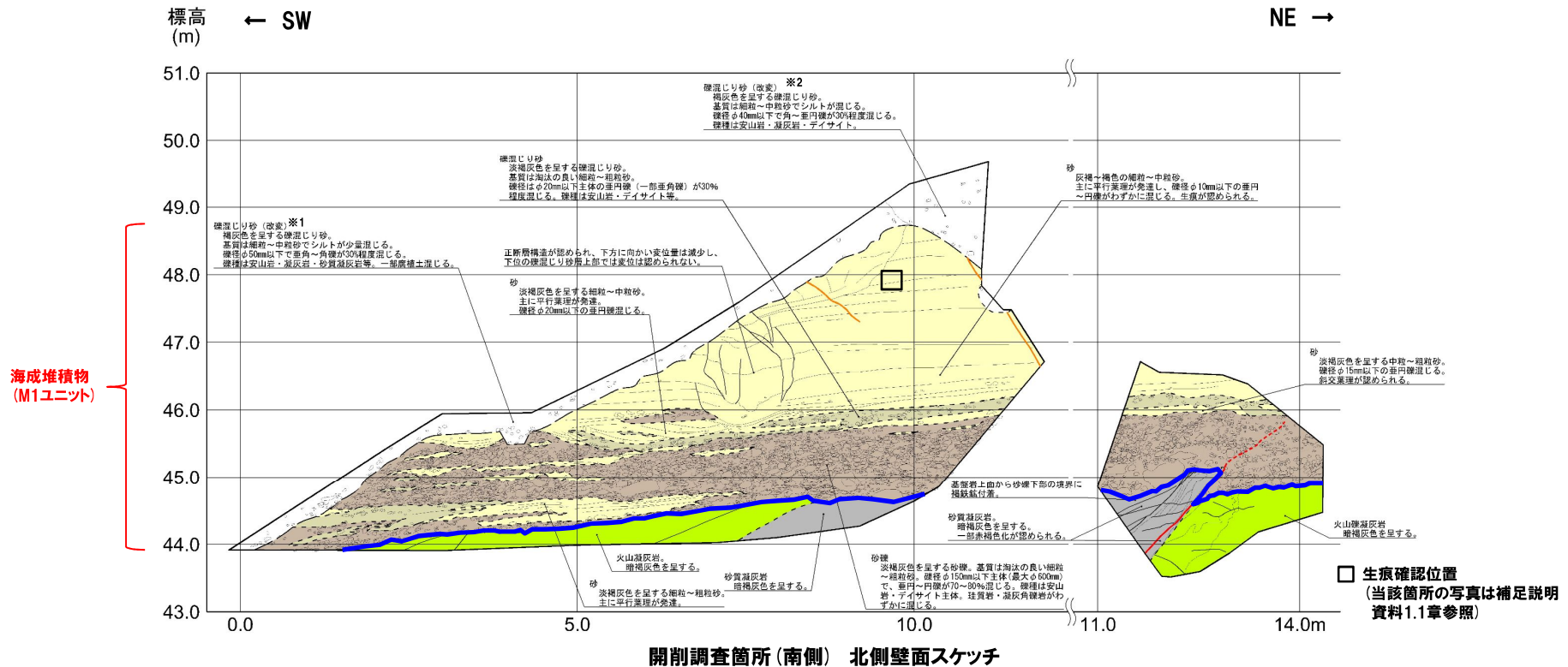
(1)地層区分及びユニット区分

①-2 露頭観察結果(堆積相観察) - 北側壁面(2/2) -

一部修正(R1/11/7審査会合)



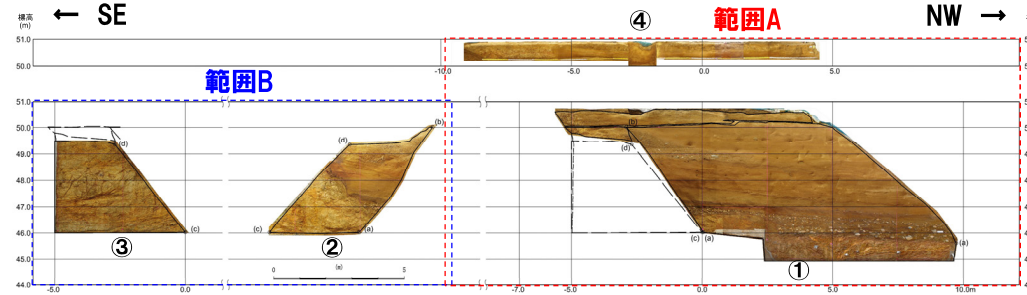
- ※1 当該層は、法面保護工(鋼製法枠工)施工後に緑化のために盛立てた客土である。客土には、敷地造成前の表土を用いている。
- ※2 当該層は、親杭横矢板設置に当たり、発生した掘削土を埋戻したものである。



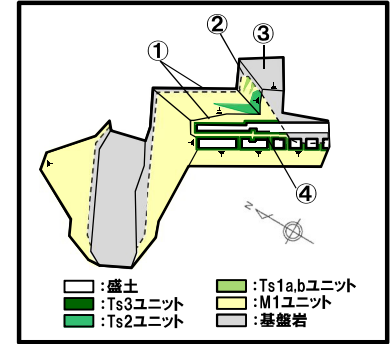
(1)地層区分及びユニット区分

①-3 露頭観察結果(堆積相観察) -南側壁面の背後法面(1/4) -

一部修正(R2/4/16審査会合)

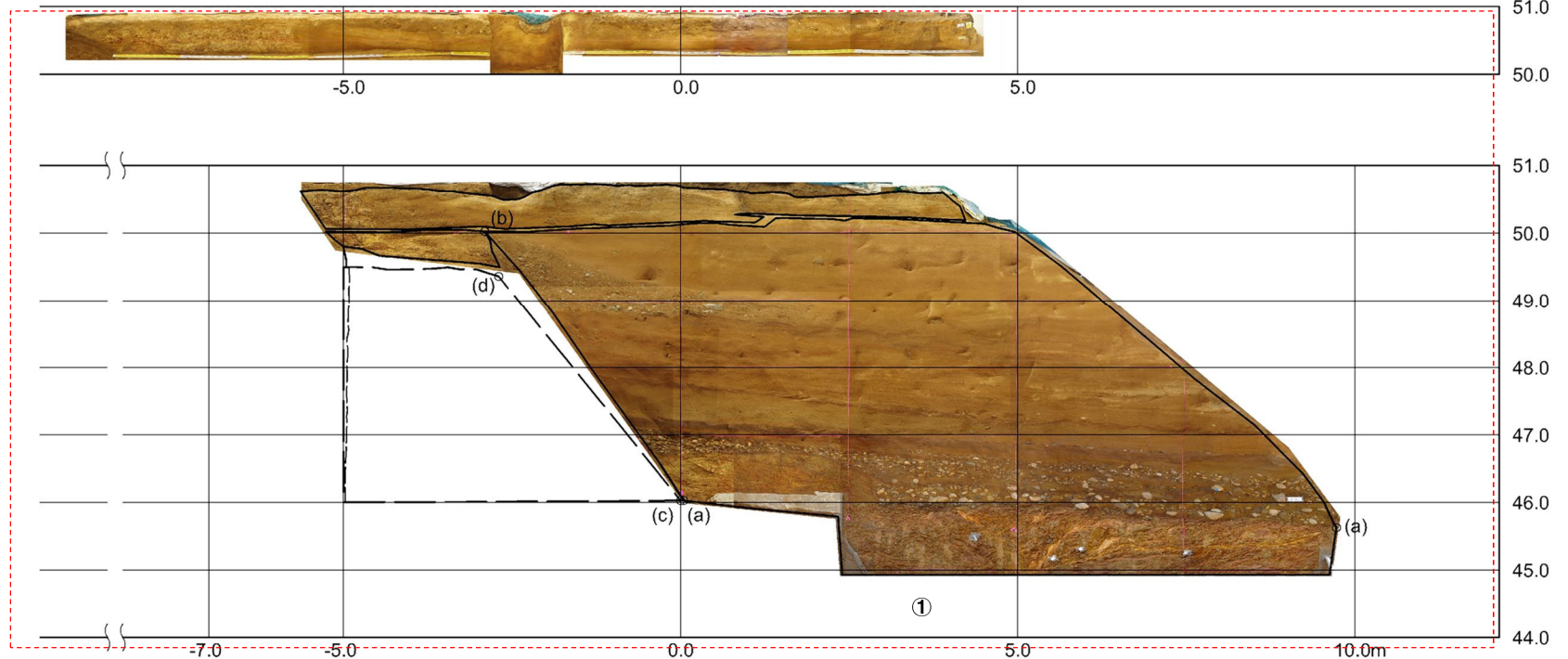


開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面写真



開削調査箇所(南側) 平面模式図  
標高(m)

← SE

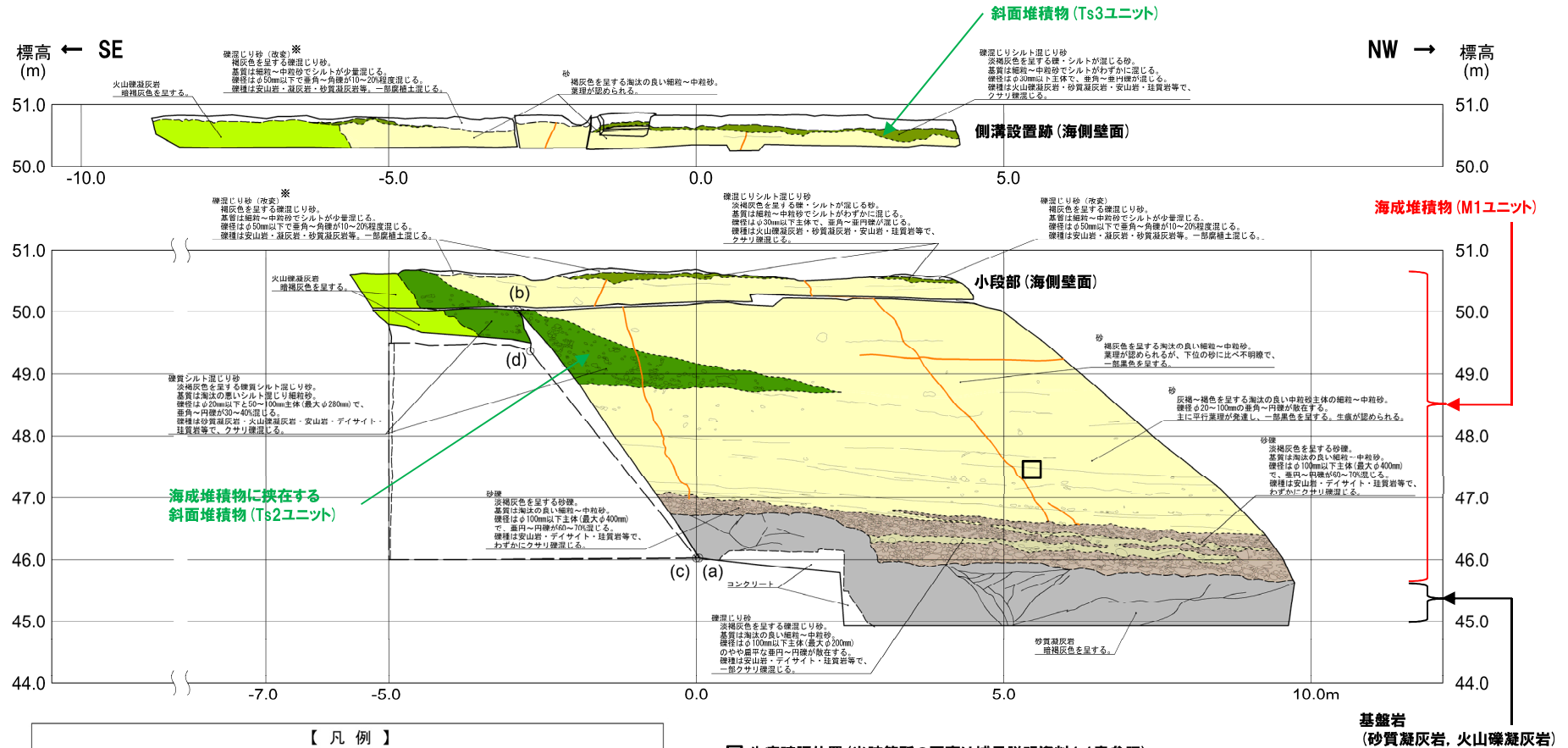


開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面写真(範囲A)

(1)地層区分及びユニット区分

①-3 露頭観察結果(堆積相観察) - 南側壁面の背後法面(2/4) -

一部修正(R2/4/16審査会合)



【凡例】

(陸上堆積物)	(海成堆積物)	(基盤岩)
■ 礫混じりシルト混じり砂	■ 砂礫	■ 火山礫凝灰岩
■ 礫質シルト混じり砂	■ 砂	■ 砂質凝灰岩
■ 礫質砂		
— 断層	— 小断層	— 大区分 (地層別による)
— 業理・堆積構造		— 細区分 (堆積相別の層別による)
○ 礫		

□ 生痕確認位置(当該箇所の写真は補足説明資料1.1章参照)

※当該層は、51m盤の平坦部を形成した際の不陸整正土である。  
不陸整正土には、同平坦部を形成した際の現地発生した土礫を用いている。

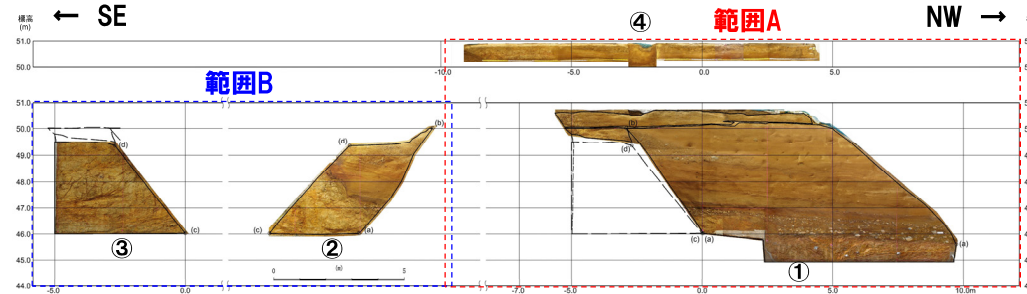
開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面スケッチ(範囲A)



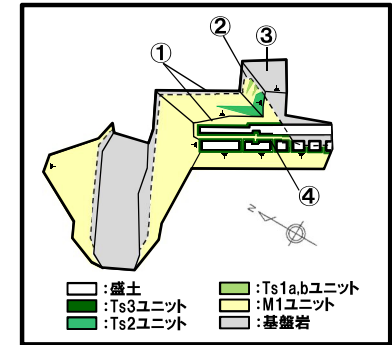
(1)地層区分及びユニット区分

①-3 露頭観察結果(堆積相観察) -南側壁面の背後法面(3/4) -

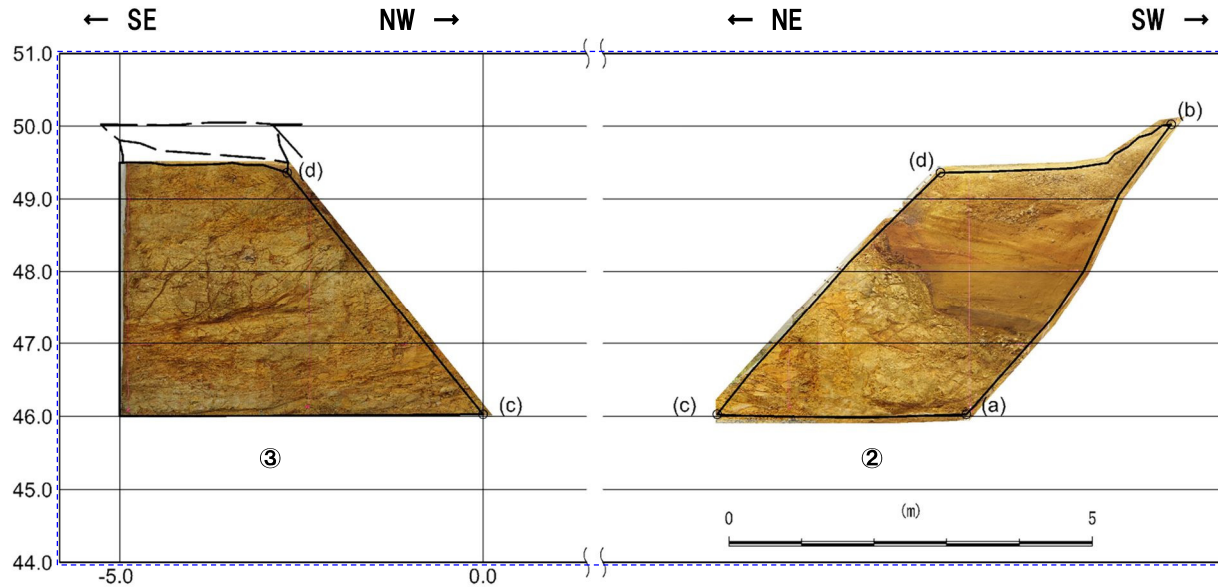
一部修正(R2/4/16審査会合)



開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面写真



開削調査箇所(南側) 平面模式図

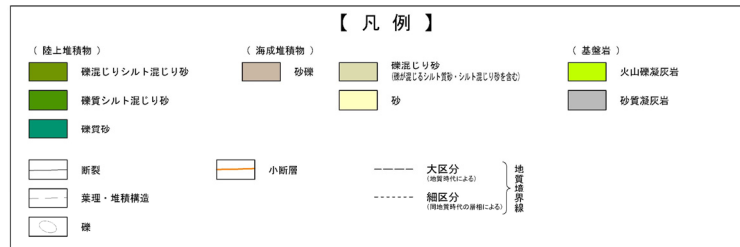
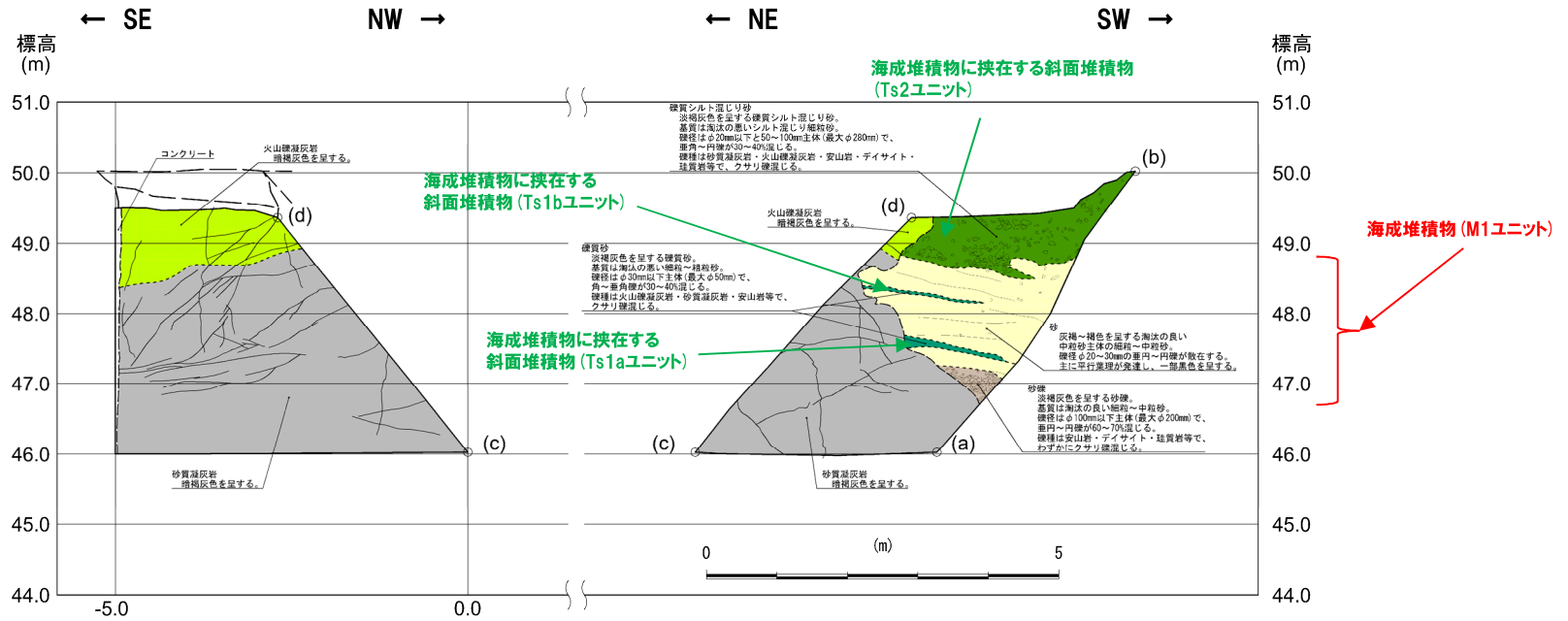


開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面写真(範囲B)

(1)地層区分及びユニット区分

①-3 露頭観察結果(堆積相観察) - 南側壁面の背後法面(4/4) -

一部修正(R2/4/16審査会合)



開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面スケッチ(範囲B)

## (1)地層区分及びユニット区分

## ②Ts3ユニットの特徴及び分布状況の確認結果(1/3)

一部修正(R3/2/12審査会合)

- F-1断層の上載地層と考えられるTs3ユニットの特徴及び分布状況を確認するため、南側壁面の背後法面天端付近において、露頭観察を実施した(対象壁面は、P181参照)。
- また、各堆積物及び盛土を対象に、はぎとり転写試料を用いた詳細観察(詳細は、P198～P225参照)を実施しており、この結果等に基づく、特徴の整理結果を次頁に示す。
- 加えて、南側壁面の背後法面天端付近のTs3ユニットについて、F-1断層が認められる南側壁面との連続性を確認した(P226～P235参照)。

## 【Ts3ユニットの特徴】

- Ts3ユニットは、以下のとおり、層相の差異から、下部及び上部に区分される。
  - ・Ts3ユニット下部は、シルト混じり砂で、細粒～中粒砂がパッチ状に分布又はシルトの偽礫が認められる。
  - ・Ts3ユニット上部は、礫混じりシルト混じり砂で、軟質化したクサリ礫の亜円礫及び風化した亜円礫が認められる。
- Ts3ユニット下部及び上部の基底面は、M1ユニットを侵食する侵食面であり、Ts3ユニットとM1ユニットの層相境界は明瞭である。
- Ts3ユニット上部と盛土の層相境界は明瞭であり、その境界は断続的に剥離する。
- Ts3ユニットは、下部及び上部で層相の差異が認められるものの、その層相境界は明瞭ではない。
- Ts3ユニットは、Ts1aユニット、Ts1bユニット及びTs2ユニットと同様な特徴が認められるものの、これらのユニットには、Ts3ユニットに認められる下部及び上部の区分は認められない。

- 後述する各種観察・分析・測定結果及び成因に関する検討(P236～P315参照)を踏まえると、Ts3ユニット下部は、小規模な土砂流によって堆積した堆積物に、Ts3ユニット上部は、旧海食崖の局所的な崩落によって堆積した堆積物に区分される。
- このため、以降、Ts3ユニット下部をTs3aユニット、Ts3ユニット上部をTs3bユニットと呼称し、異なるユニットとして扱う。

## 【南側壁面との連続性】

- Ts3aユニット及びTs3bユニットは、南側壁面の背後法面天端付近からF-1断層が認められる南側壁面にかけて連続する。
- また、南側壁面におけるはぎとり転写試料観察の結果、最も高角度で上方まで延長が認められるM1ユニット中の小断層(N20° W/50° W)は、M1ユニットを侵食するTs3bユニットの基底面まで連続し、その奥行き方向で採取したブロック試料における研磨片観察及びX線CT画像観察の結果、同小断層は、M1ユニットを侵食するTs3aユニットの基底面まで連続する状況が認められる。
- なお、Ts3aユニット及びTs3bユニットと小断層の上端部との関係については、後述する5.2.2章参照。



(1)地層区分及びユニット区分

②Ts3ユニットの特徴及び分布状況の確認結果(2/3)

一部修正(R2/8/7審査会合)

開削調査箇所(南側)に認められる各堆積物及び盛土の特徴

地層区分	ユニット区分		層相				層相境界の状況
			色調	性状	礫	その他	
盛土	-		・暗褐灰～黒褐灰色を呈する	・シルト混じり礫質砂～礫混じり砂～礫混じりシルト質砂で、層相変化が著しい ・不均質な層相を示す	・新鮮な角～亜円礫が混じる	・黒褐灰色を呈する箇所及びシート状の黒褐灰色のブロックが認められる ・縦方向の亀裂が発達する ・斜面堆積物に比べ、植物根が多く認められる	○層相境界は明瞭であり、その境界は断続的に剥離する。 ○層相境界は、明瞭ではない。 ○Ts3aユニットの基底面は、M1ユニットを侵食する侵食面であり、層相境界は明瞭である。 ○Ts3aユニットの分布は断続的であり、Ts3bユニットがM1ユニットの直上に分布する箇所も認められる。 ○Ts3bユニットの基底面は、M1ユニットを侵食する侵食面であり、層相境界は明瞭である。
斜面堆積物	Ts3	上部(Ts3b)	・褐灰～暗褐灰色を呈する	・礫混じりシルト混じり砂	・軟質化したクサリ礫の亜円礫及び風化した亜円礫が認められる	・塊状若しくは粒状の黒色のブロックが認められる	
		下部(Ts3a)	・褐灰色を呈する	・シルト混じり砂	-	・細粒～中粒砂がパッチ状に分布する ・シルトの偽礫が認められる ・塊状の黒色のブロックが認められる	
海成堆積物	M1		・明褐灰～褐灰色を呈する	・細粒～中粒砂 ・淘汰が良い	-	・葉理が認められる ・生痕が認められる	
斜面堆積物	Ts2		・淡褐灰色を呈する	・礫質シルト混じり砂	・旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来の亜角礫及び砂質凝灰岩由来の角礫が認められる※ ・基盤岩由来ではない亜円礫をわずかに含む	・基底部の層相はシルト混じり砂で、Ts3aユニットに類似しているが、パッチ状の細粒～中粒砂又はシルトの偽礫は認められない	・基底面は下位のM1ユニットを侵食している
	Ts1(Ts1a及びTs1b)		・淡褐灰色を呈する	・礫質砂	・旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来の角礫が認められる※	-	・基底面は下位のM1ユニットを侵食している

青書きはTs3ユニットと異なる特徴  
朱書きはTs3ユニットと同様な特徴

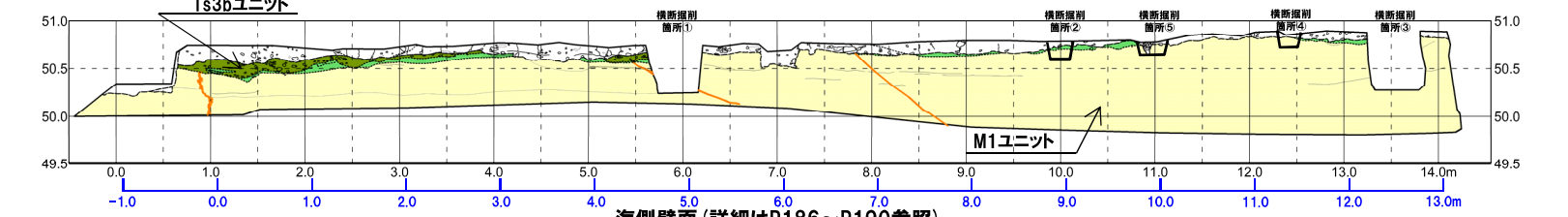
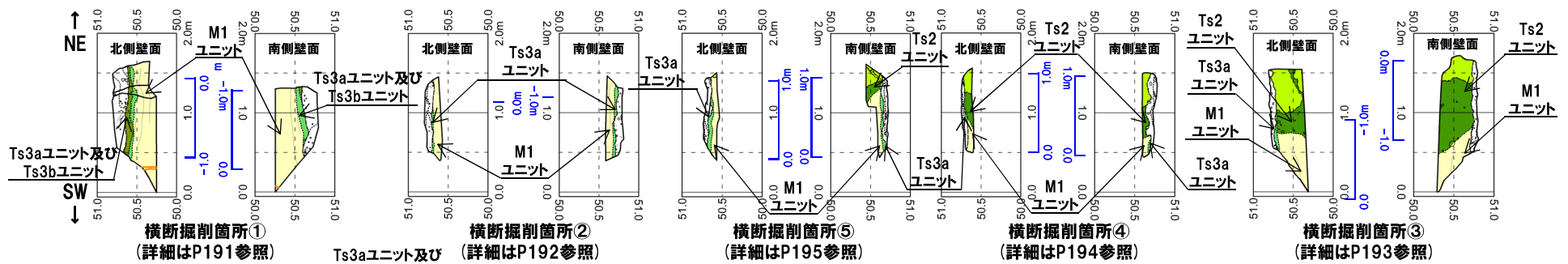
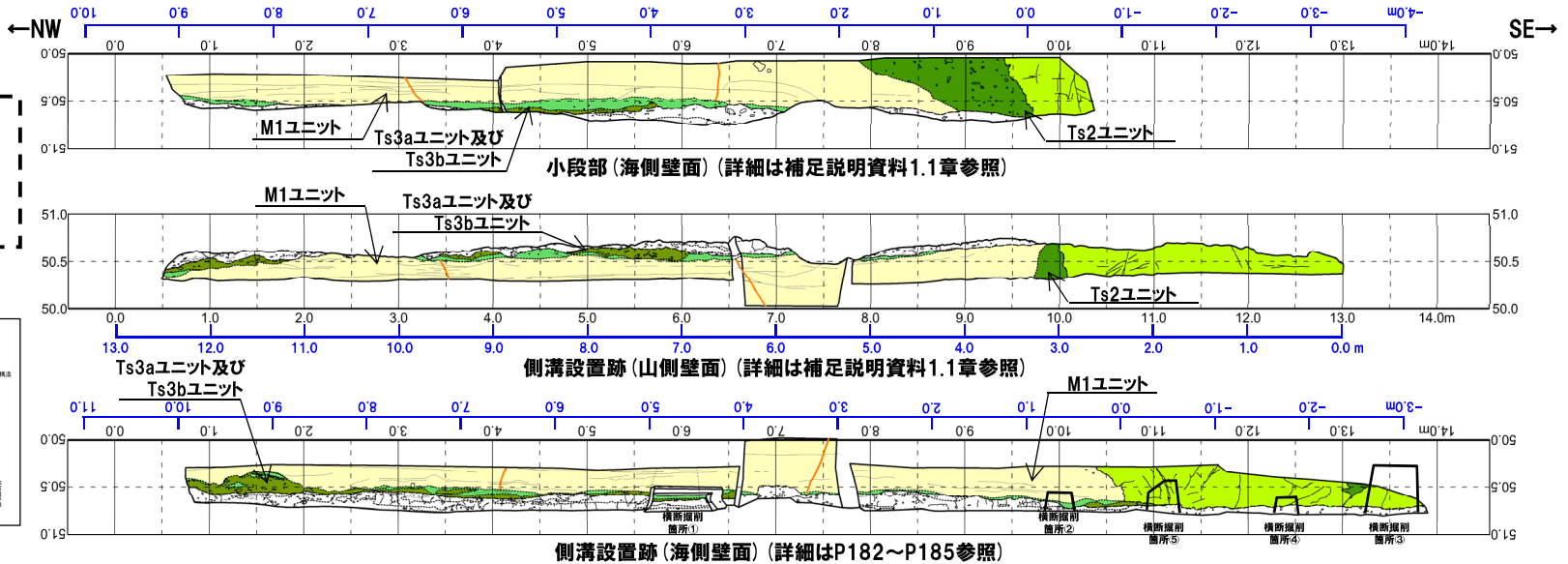
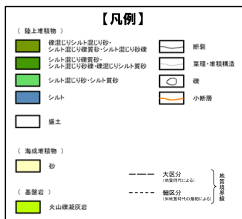
※後述する薄片観察及び礫種・礫の形状調査の結果、Ts3bユニットには、旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩及び砂質凝灰岩由来の礫が認められる。

(1)地層区分及びユニット区分

②Ts3ユニットの特徴及び分布状況の確認結果(3/3)

一部修正(R2/8/7審査会合)

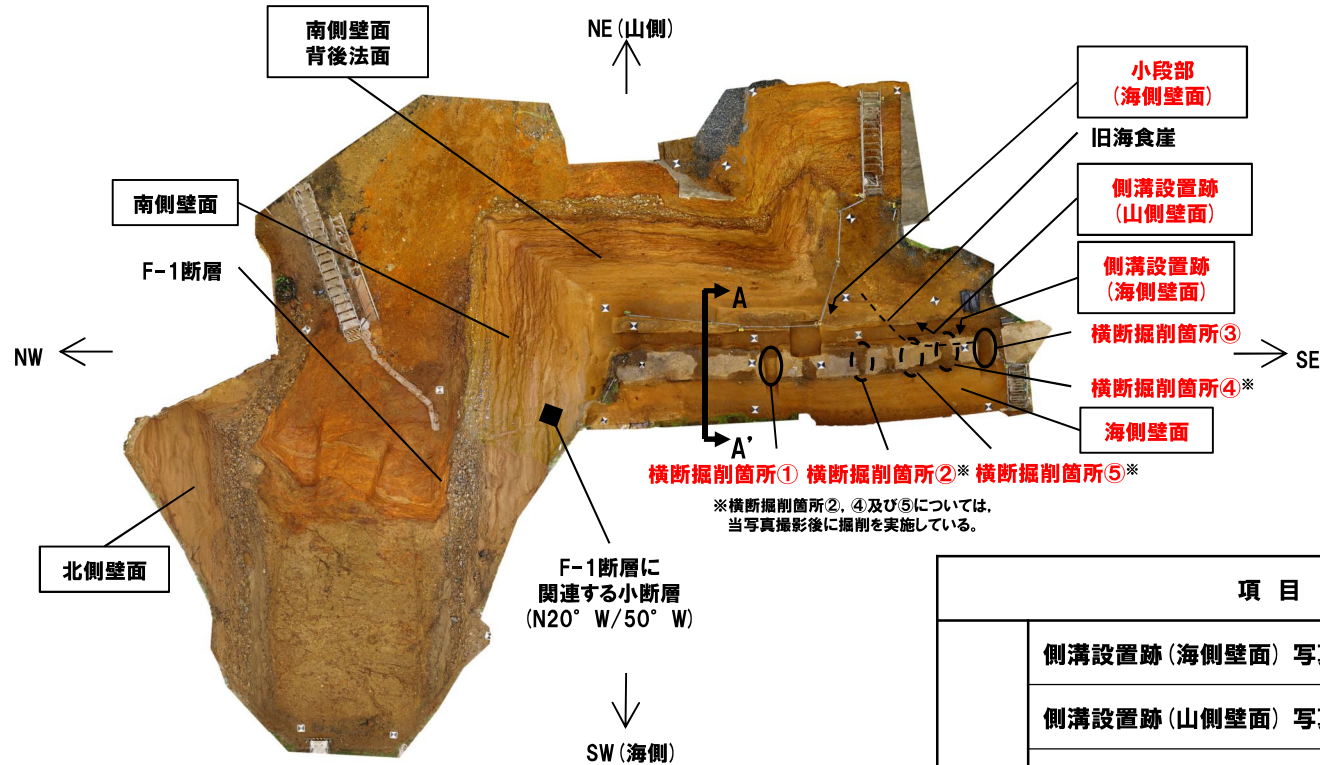
黒字の距離呈は、当展開図における距離呈を、青字の距離呈は、P182~P195及び補足説明資料1.1章に示す各壁面スケッチの距離呈を示す。



開削調査箇所(南側)南側壁面の背後法面天端付近スケッチ展開図

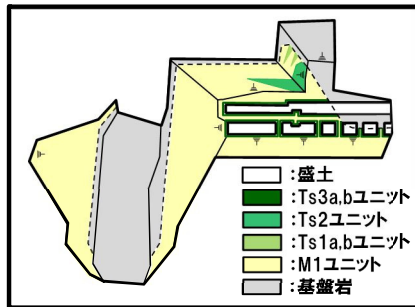
(1)地層区分及びユニット区分

一部修正 (R3/2/12審査会合)

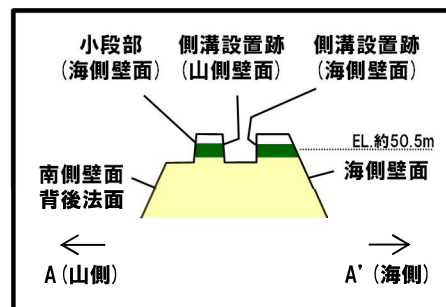


\*横断掘削箇所②、④及び⑤については、  
当写真撮影後に掘削を実施している。

開削調査箇所(南側)南側壁面の背後法面天端付近の詳細スケッチ作成範囲



平面模式図



南側壁面の背後法面 天端付近  
断面模式図 (A-A' 断面)

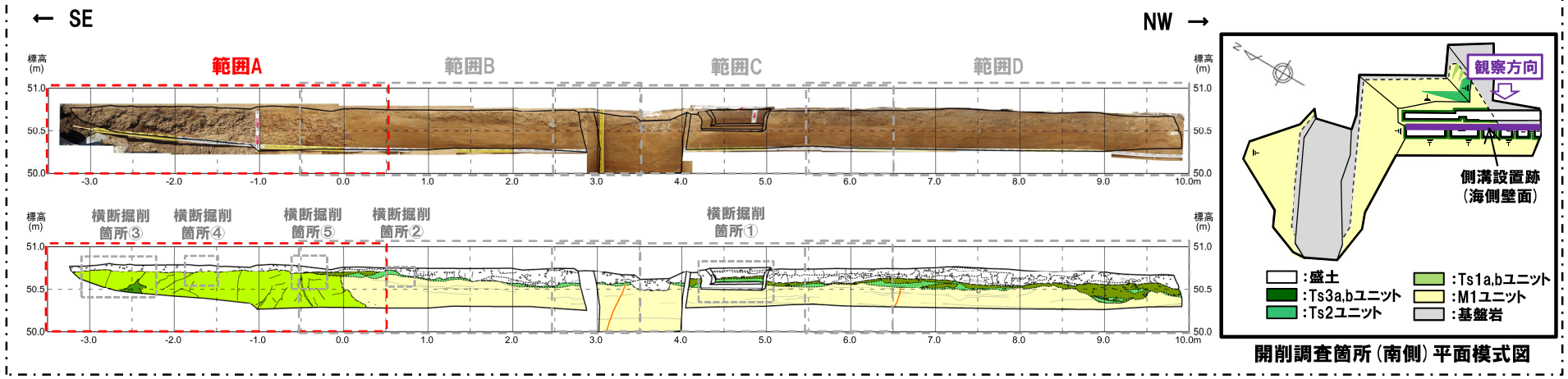
項目		掲載頁
②-1	側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ	本編資料P182~P185
	側溝設置跡(山側壁面) 写真及びスケッチ	補足説明資料1.1章
	小段部海側壁面 写真及びスケッチ	補足説明資料1.1章
	海側壁面 写真及びスケッチ	本編資料P186~P190
	横断掘削箇所①~⑤ 写真及びスケッチ	本編資料P191~P195
②-2	南側壁面の背後法面天端付近 堆積相観察 (はぎとり転写試料①~④及び露頭観察箇所①~③)	本編資料P198~P213
	Ts2ユニット 堆積相観察 (はぎとり転写試料①及び②)	本編資料P214~P219
	Ts1aユニット及びTs1bユニット堆積相観察 (はぎとり転写試料)	本編資料P220~P225
②-3	南側壁面との連続性	本編資料P226~P235



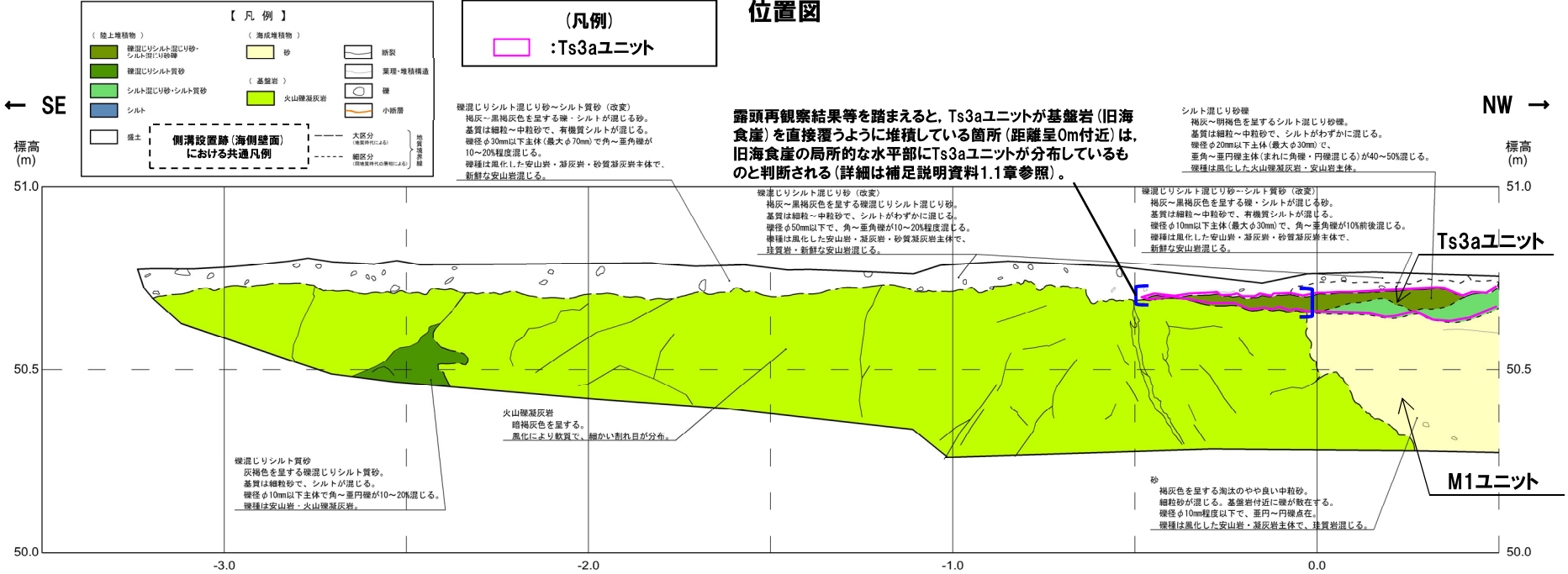
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(1/4)

一部修正(R2/8/7審査会合)



開削調査箇所(南側)平面模式図



開削調査箇所(南側)側溝設置跡(海側壁面) スケッチ(範囲A)

露頭再観察結果等を踏まえると、Ts3aユニットが基盤岩(旧海食崖)を直接覆うように堆積している箇所(距離呈0m付近)は、旧海食崖の局所的な水平部にTs3aユニットが分布しているものと判断される(詳細は補足説明資料1.1章参照)。

シルト混じり砂礫  
褐灰～明褐色を呈するシルト混じり砂礫。  
基質は細粒～中粒砂で、シルトがわずかに混じる。  
礫径φ20mm以下主体(最大φ30mm)で、  
垂角～垂円礫主体(まれに角礫・円礫混じる)が40～50%混じる。  
礫種は風化した安山岩・凝灰岩・砂質凝灰岩主体。  
新鮮な安山岩混じる。

礫混じりシルト混じり砂(改善)  
褐灰～黒褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂。  
基質は細粒～中粒砂で、シルトがわずかに混じる。  
礫径φ50mm以下で、角～垂角礫が10～20%程度混じる。  
礫種は風化した安山岩・凝灰岩・砂質凝灰岩主体で、  
球質岩・新鮮な安山岩混じる。

礫混じりシルト混じり砂～シルト質砂(改善)  
褐灰～黒褐灰色を呈する礫・シルトが混じる。  
基質は細粒～中粒砂で、有機質シルトが混じる。  
礫径φ10mm以下主体(最大φ30mm)で、角～垂角礫が10%前後混じる。  
礫種は風化した安山岩・凝灰岩・砂質凝灰岩主体で、  
新鮮な安山岩混じる。

- 【凡例】
- (陸上堆積物)
    - 礫混じりシルト混じり砂・シルト混じり砂礫
    - 礫混じりシルト質砂
    - シルト混じり砂・シルト質砂
    - シルト
  - (海成堆積物)
    - 砂
    - (基盤岩)
      - 火山礫凝灰岩
  - 特徴
    - 断崖
    - 崖根・堆積構造
    - 礫
    - 小陥落

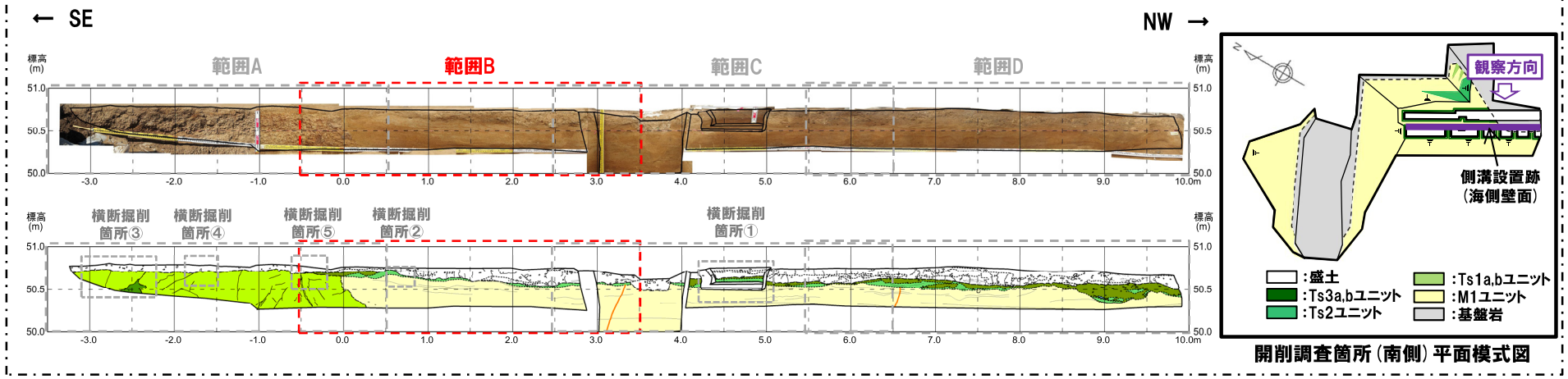
- (凡例)
- Ts3aユニット

位置図

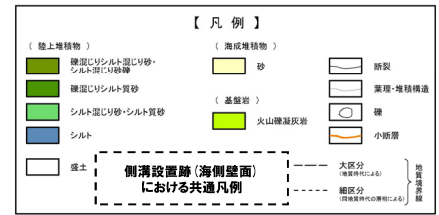
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(2/4)

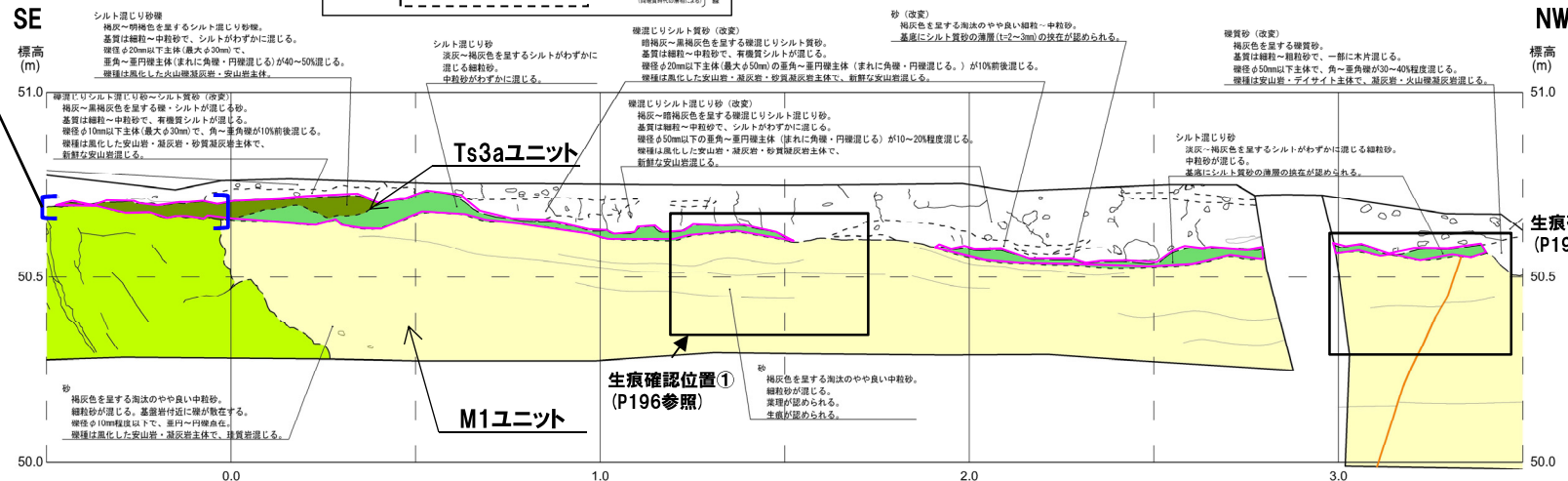
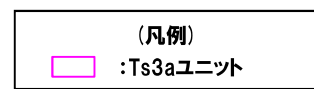
一部修正(R2/8/7審査会合)



露頭再観察結果等を踏まえると、Ts3aユニットが基盤岩(旧海食崖)を直接覆うように堆積している箇所(距離呈0m付近)は、旧海食崖の局所的な水平部にTs3aユニットが分布しているものと判断される(詳細は補足説明資料1.1章参照)。



位置図

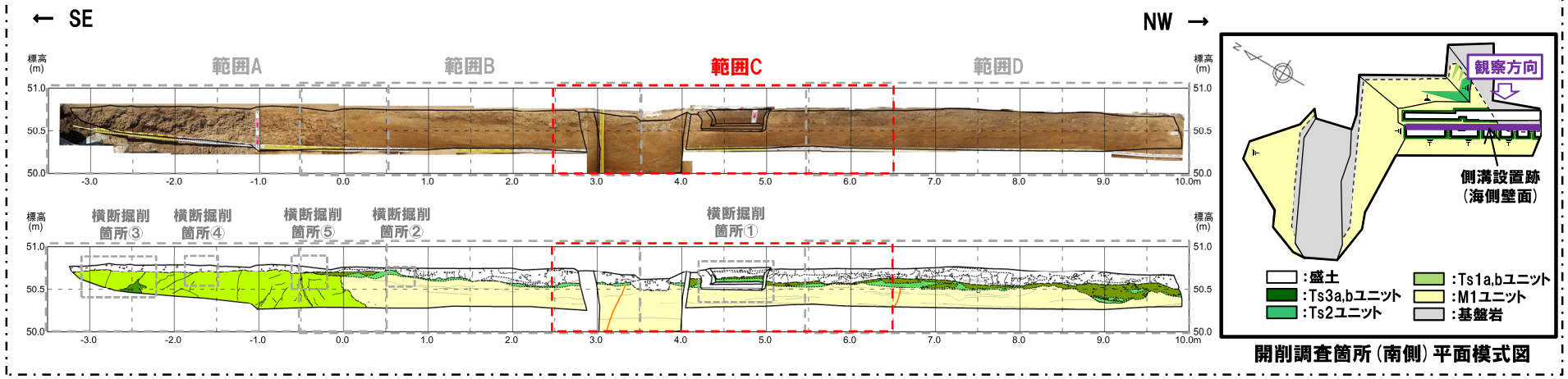


開削調査箇所(南側) 側溝設置跡(海側壁面) スケッチ(範囲B)

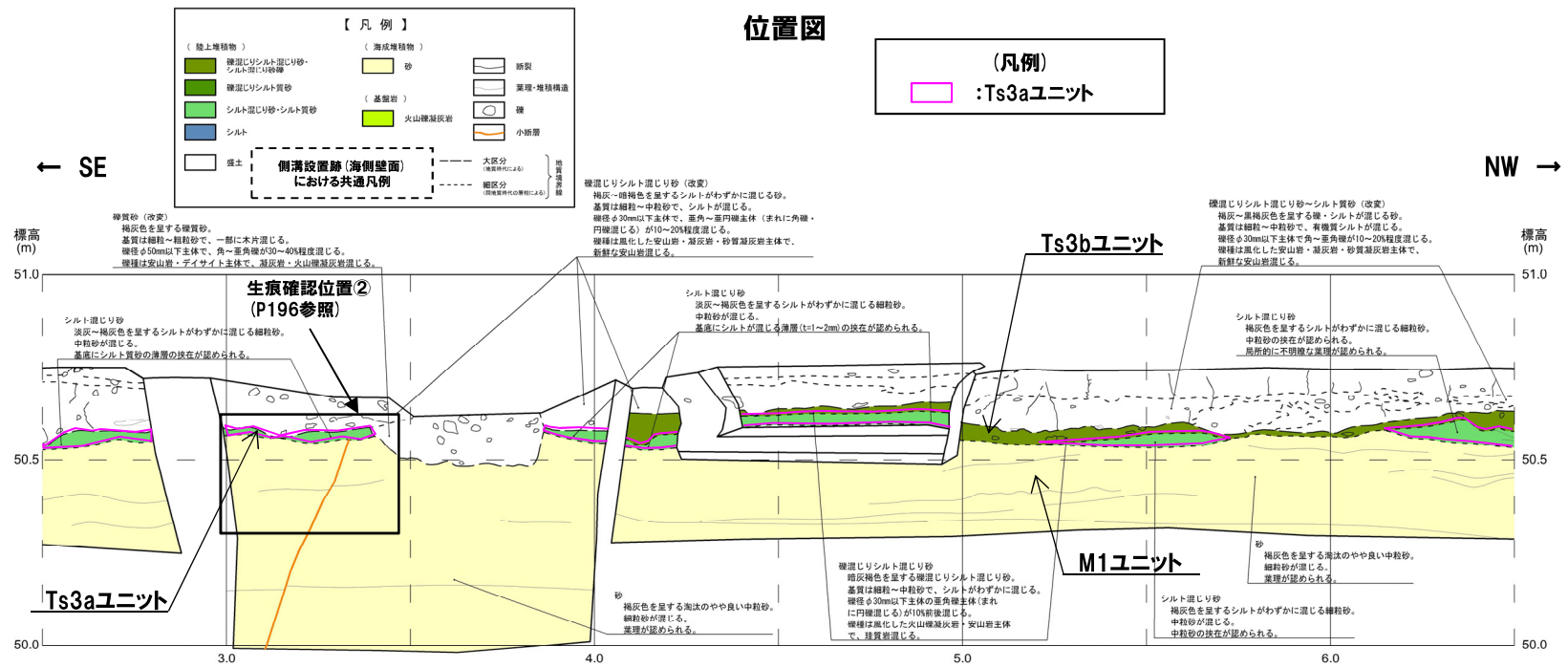
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(3/4)

一部修正(R2/8/7審査会合)



開削調査箇所(南側)平面模式図



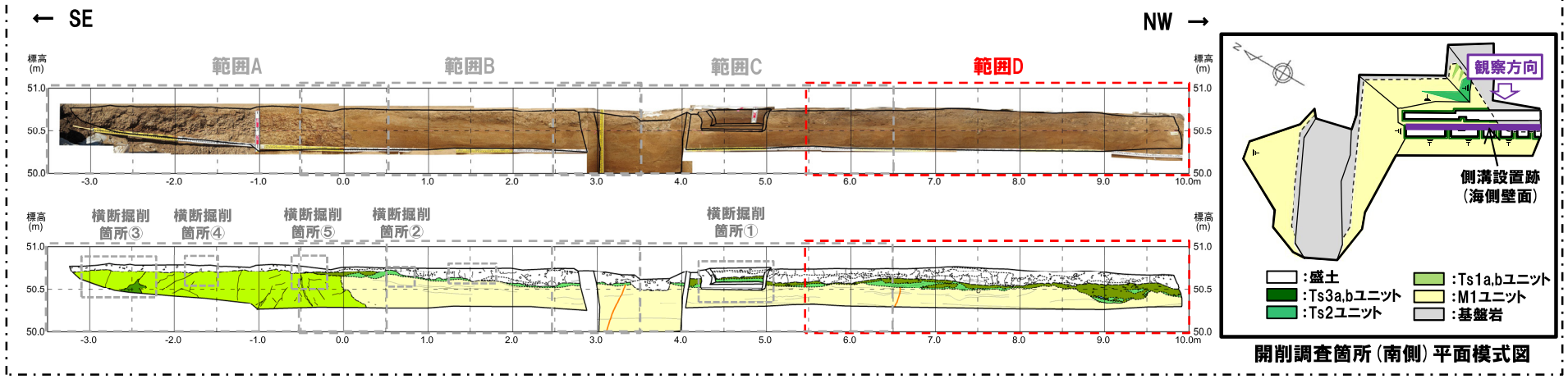
開削調査箇所(南側)側溝設置跡(海側壁面) スケッチ(範囲C)



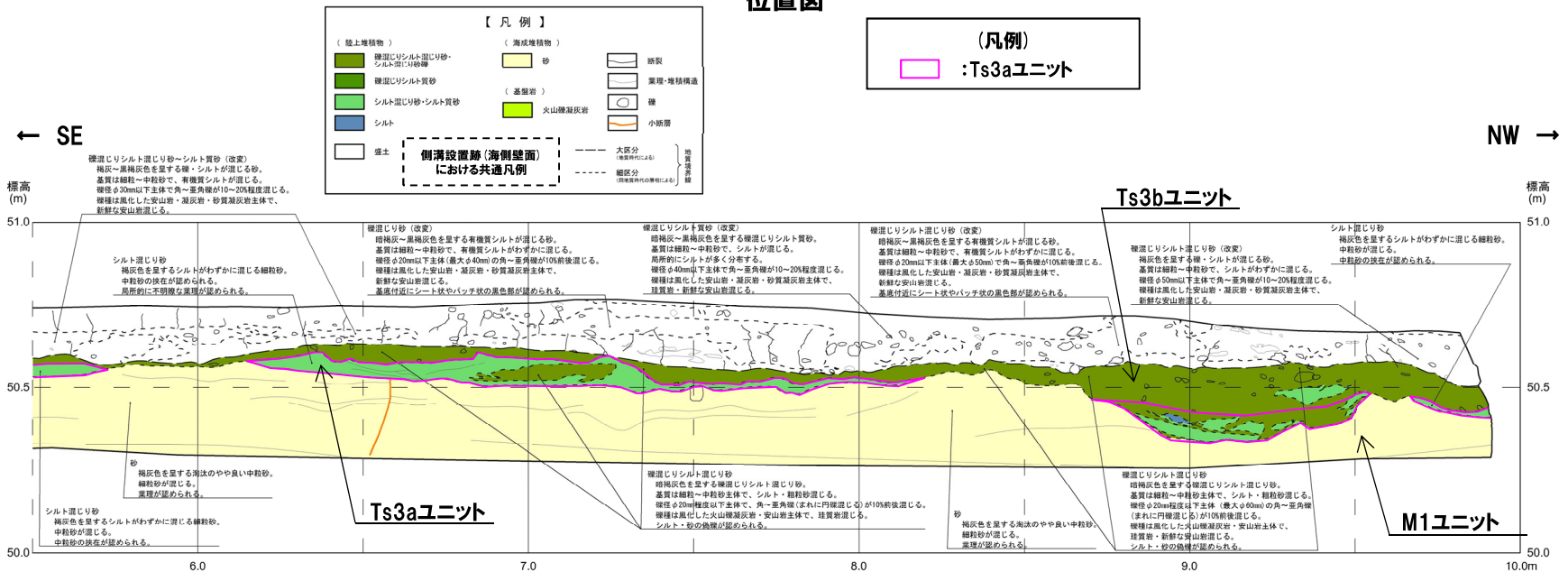
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(4/4)

一部修正(R2/8/7審査会合)



位置図

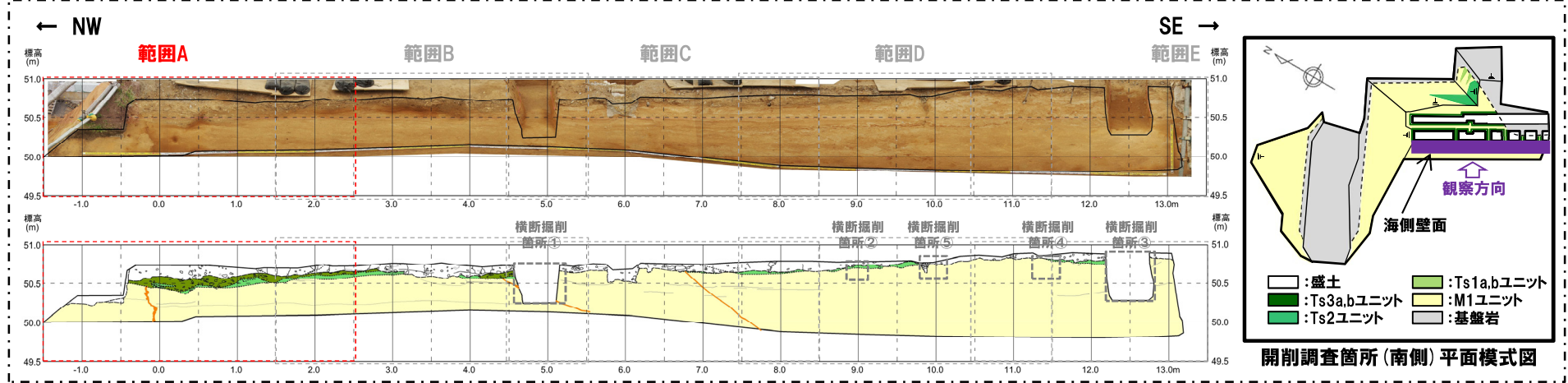


開削調査箇所(南側) 側溝設置跡(海側壁面) スケッチ(範囲D)

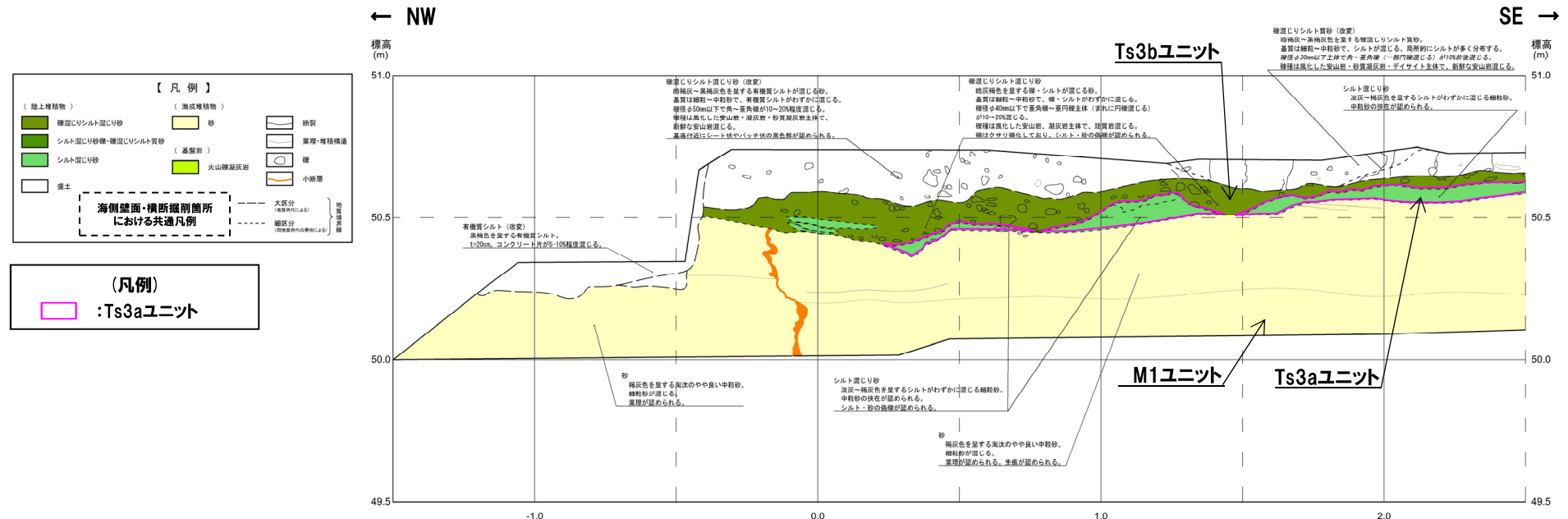
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 海側壁面 写真及びスケッチ (1/5)

一部修正 (R2/8/7審査会合)



位置図

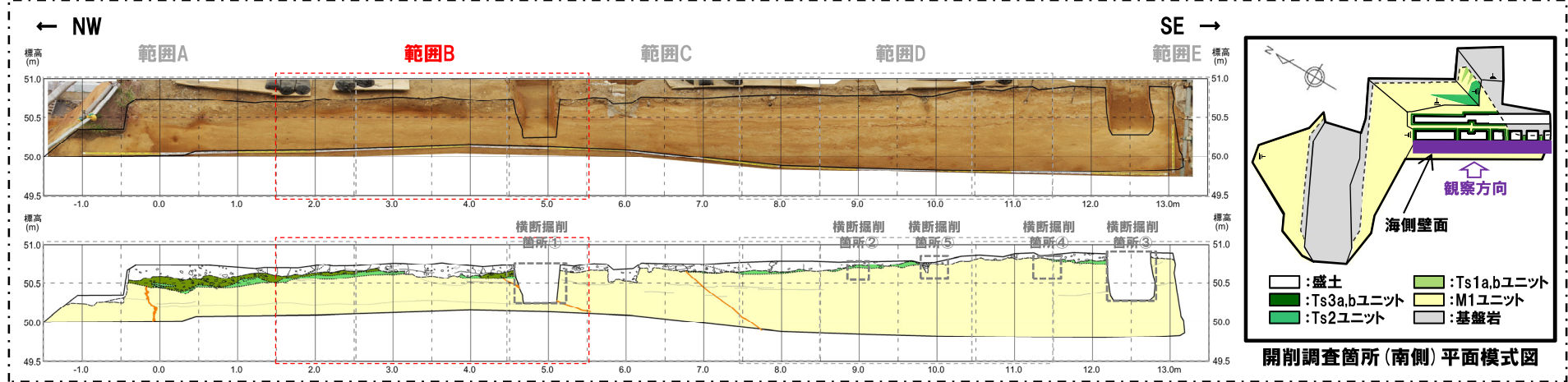


開削調査箇所(南側)海側壁面 スケッチ(範囲A)

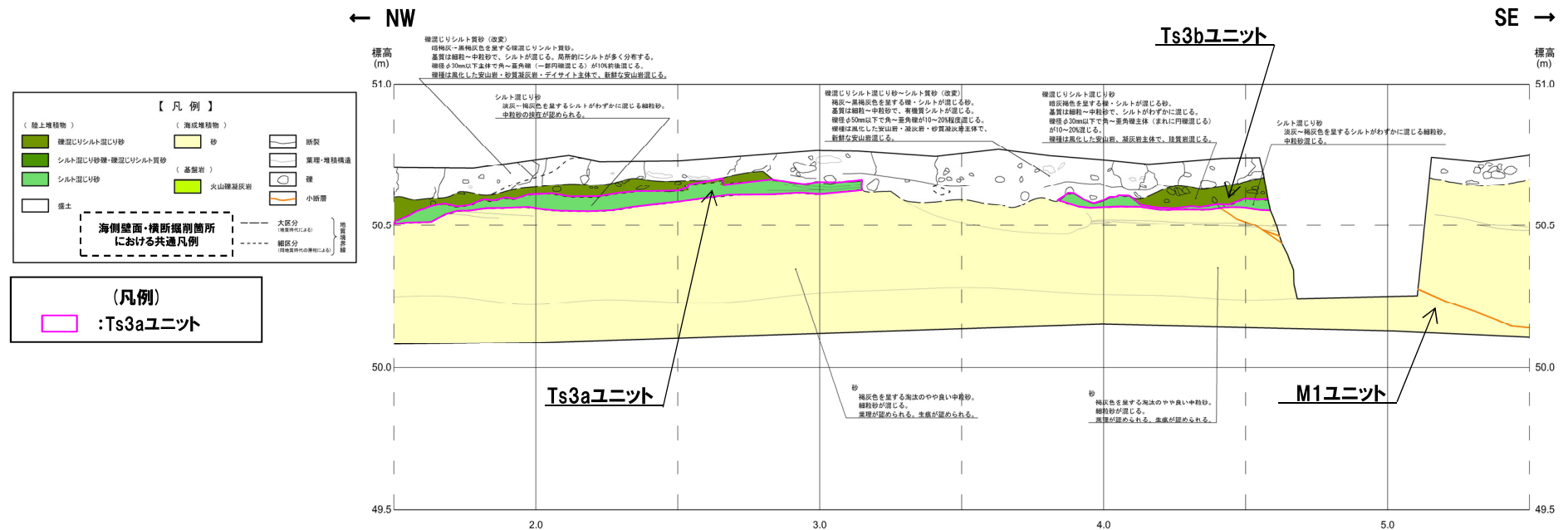
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 海側壁面 写真及びスケッチ (2/5)

一部修正 (R2/8/7審査会合)



位置図

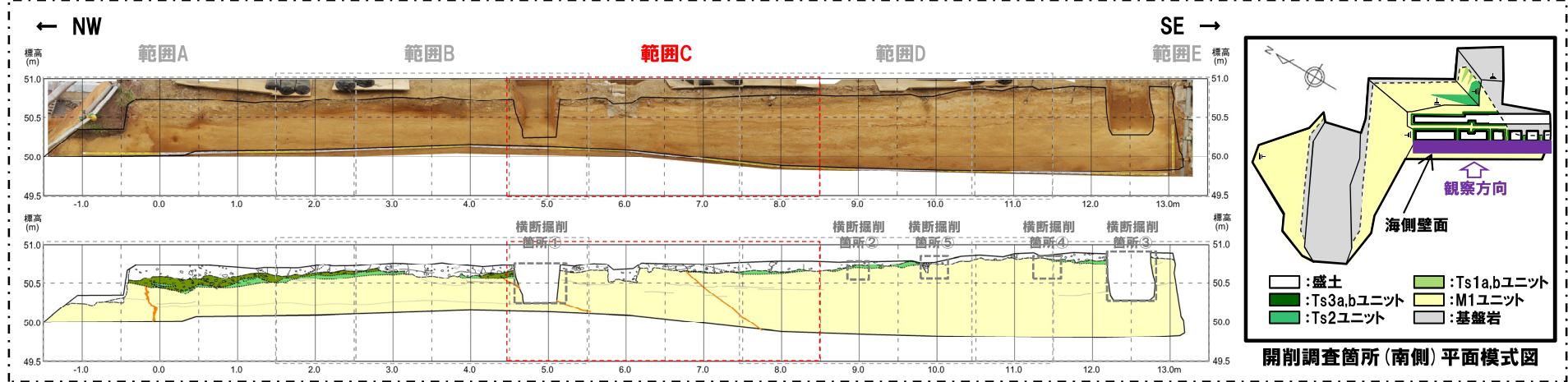


開削調査箇所(南側)海側壁面 スケッチ(範囲B)

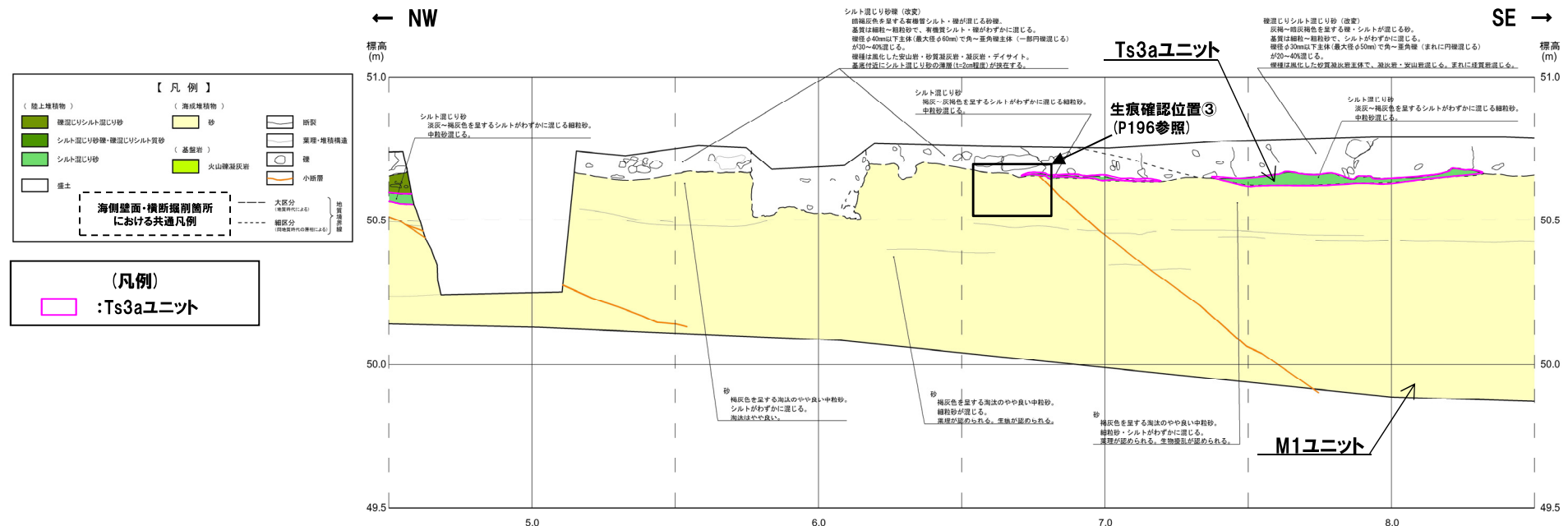
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 海側壁面 写真及びスケッチ (3/5)

一部修正 (R2/8/7審査会合)



位置図



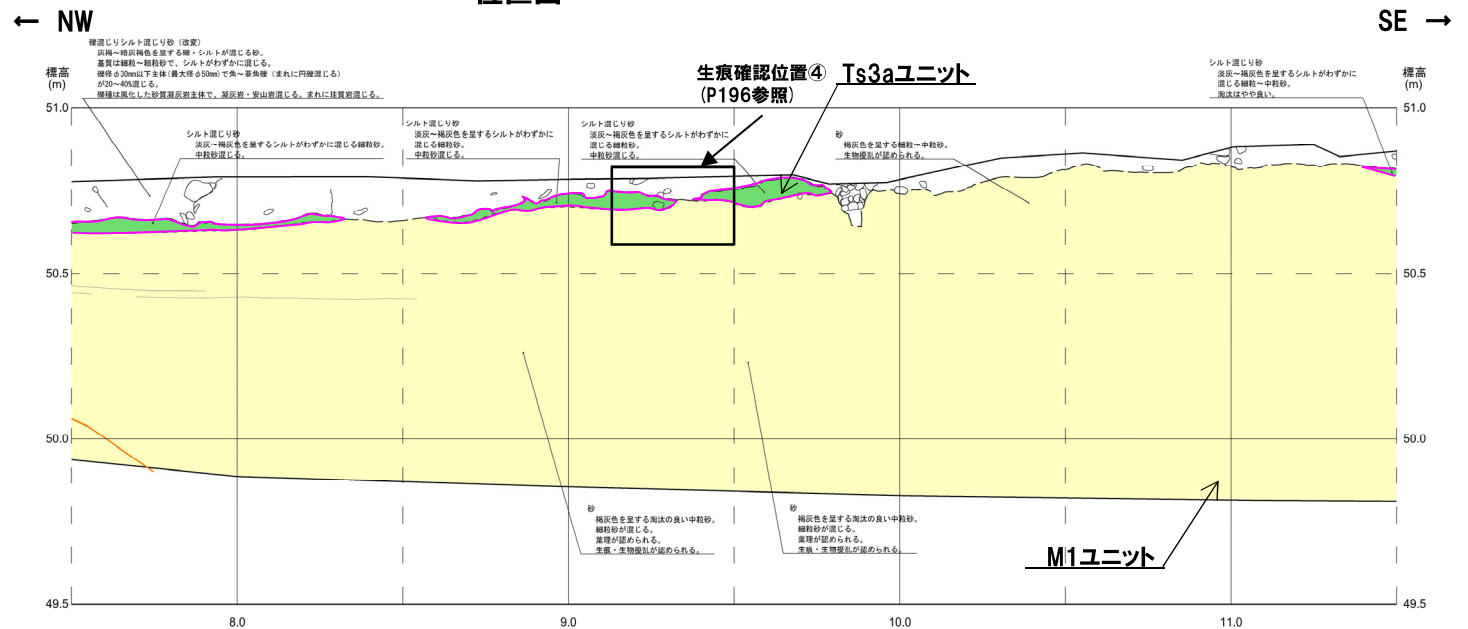
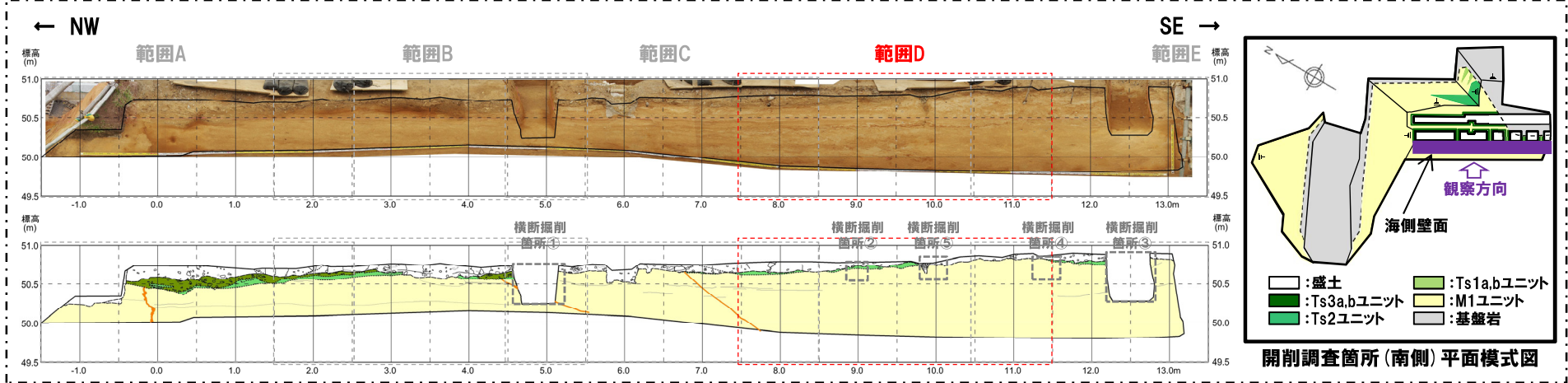
開削調査箇所(南側)海側壁面 スケッチ(範囲C)



(1)地層区分及びユニット区分

②-1 海側壁面 写真及びスケッチ (4/5)

一部修正 (R2/8/7審査会合)

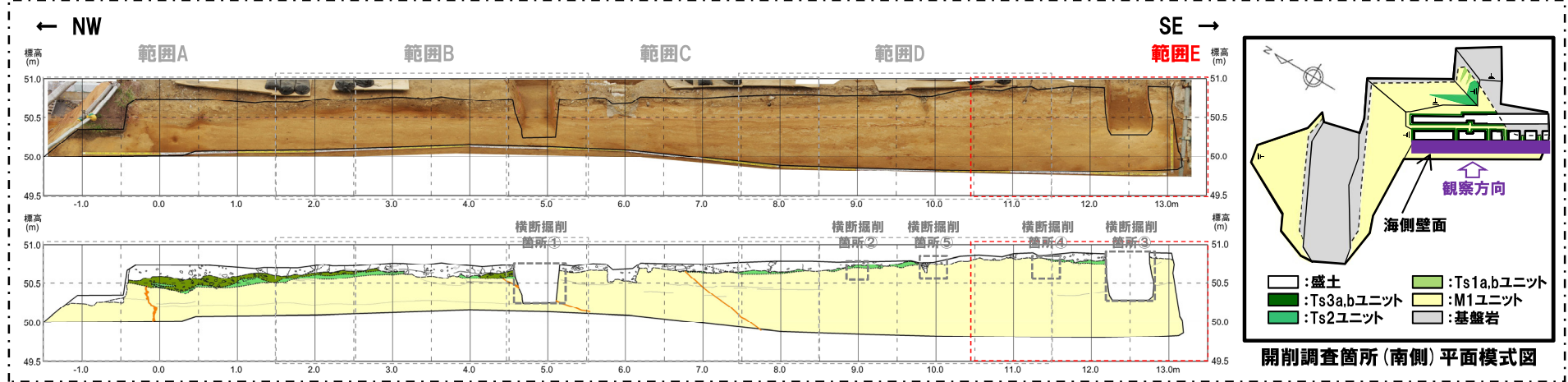


開削調査箇所(南側)海側壁面 スケッチ(範囲D)

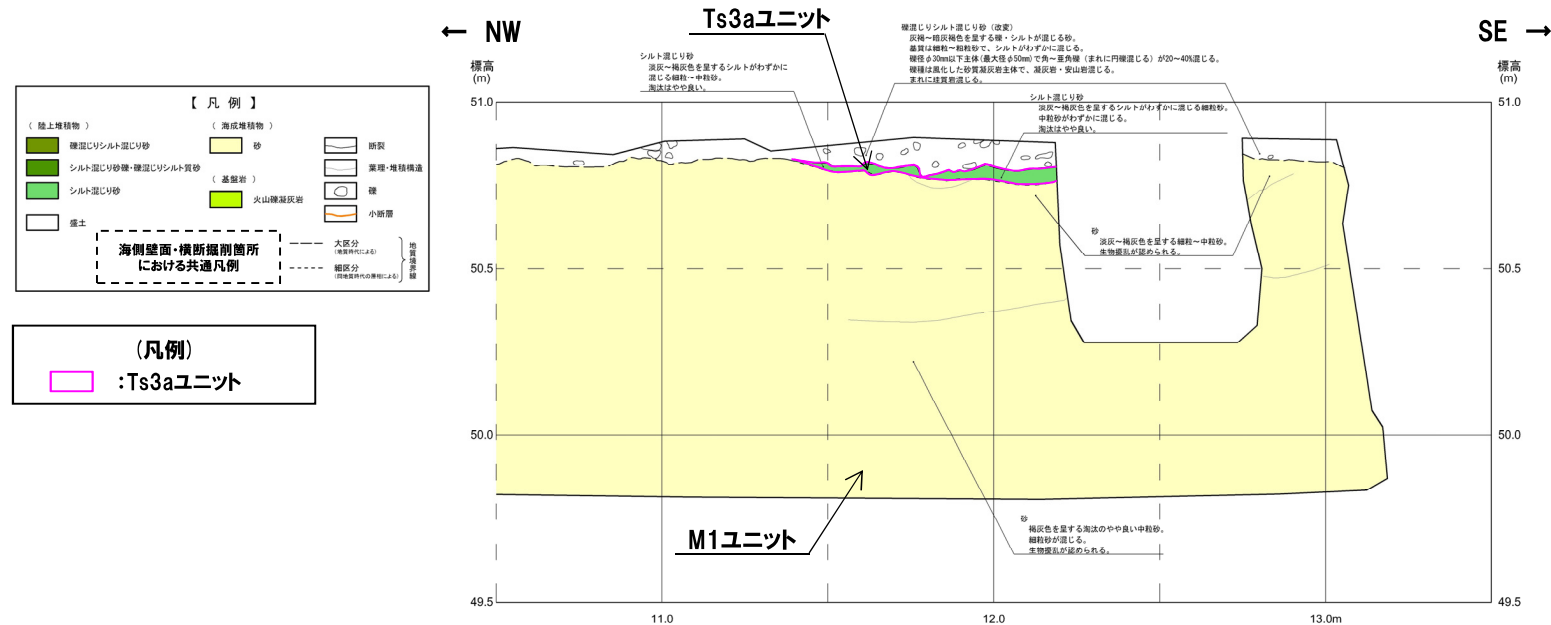
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 海側壁面 写真及びスケッチ (5/5)

一部修正 (R2/8/7審査会合)



位置図

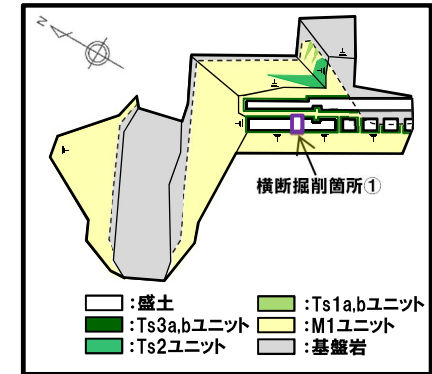
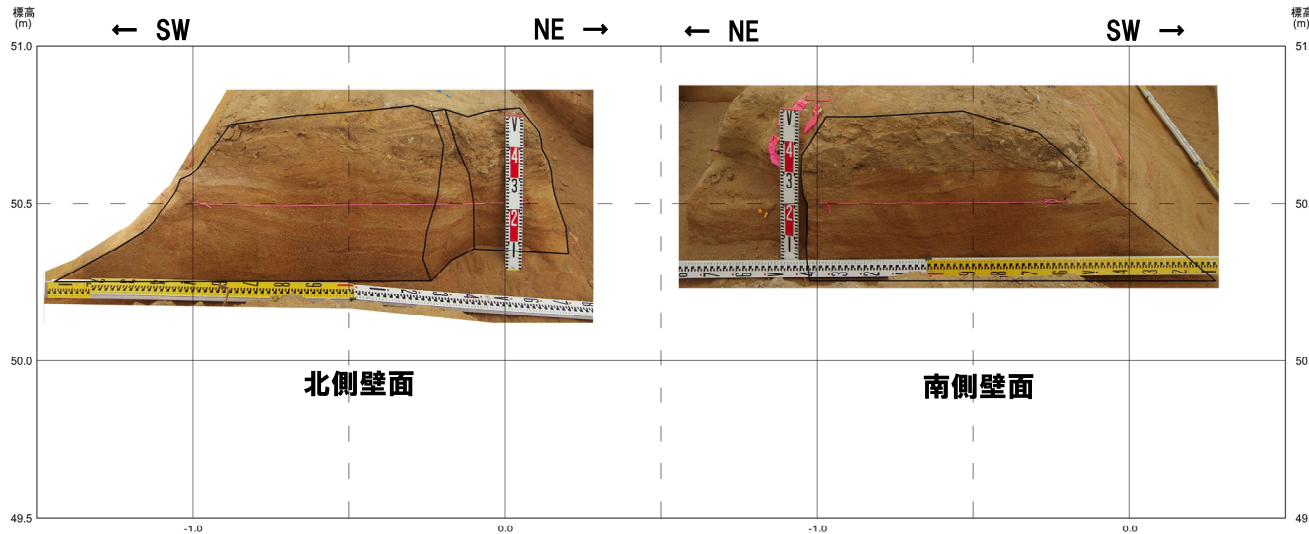


開削調査箇所(南側)海側壁面 スケッチ(範囲E)

(1)地層区分及びユニット区分

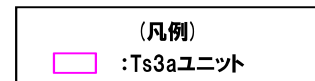
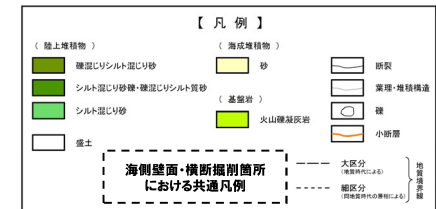
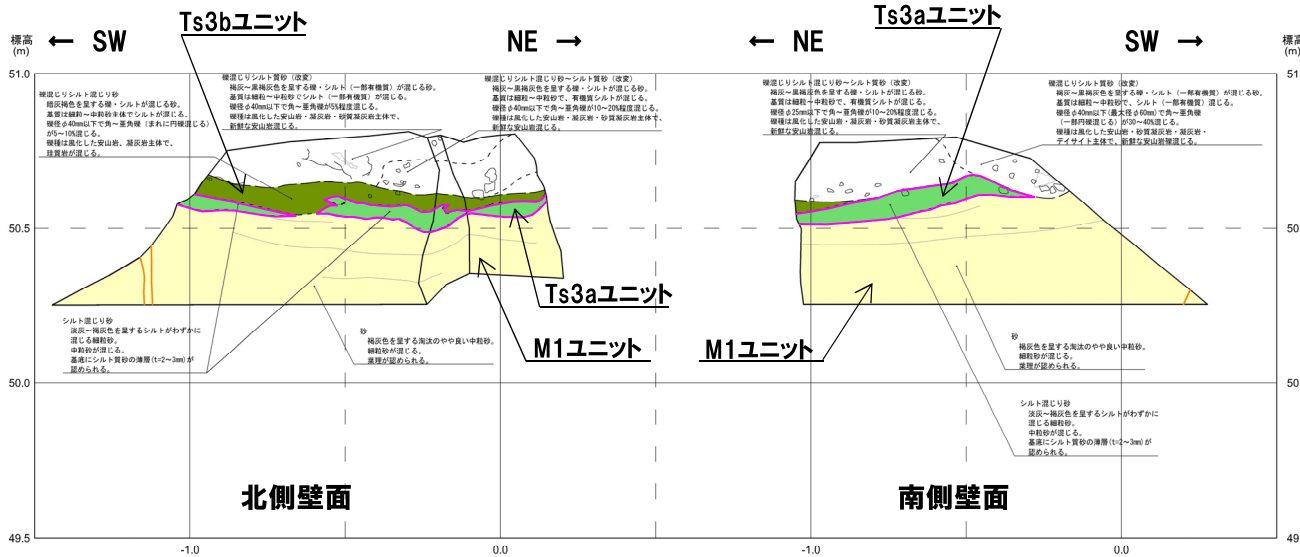
②-1 横断掘削箇所① 写真及びスケッチ

一部修正 (R2/8/7審査会合)



開削調査箇所(南側)平面模式図

開削調査箇所(南側)横断掘削箇所① 写真

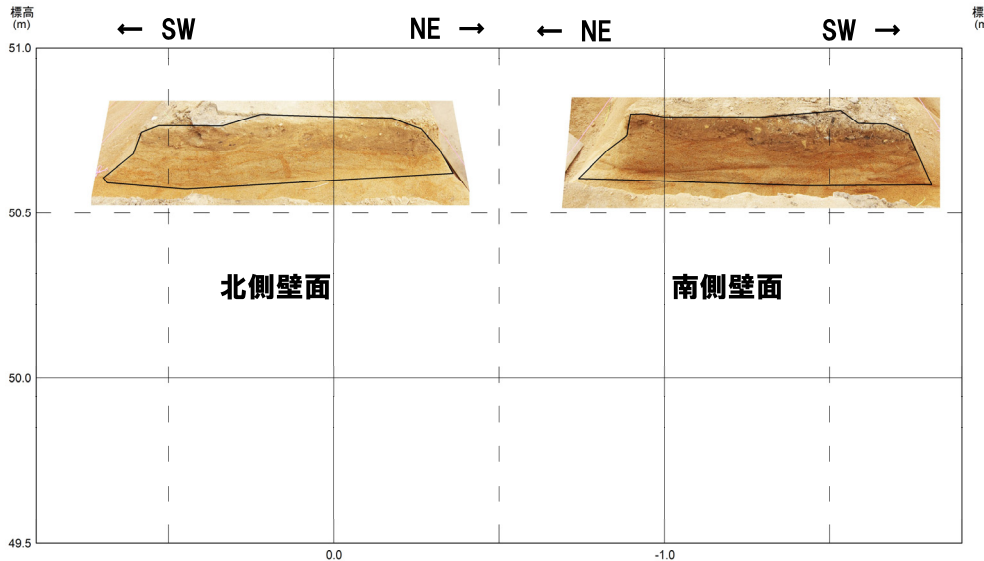


開削調査箇所(南側)横断掘削箇所① スケッチ

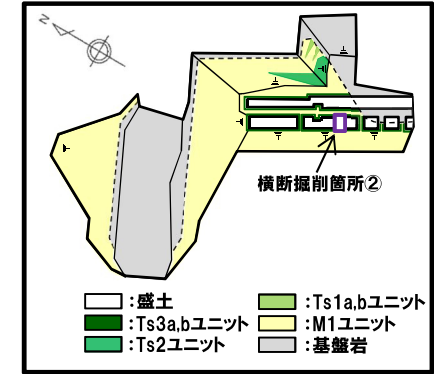
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 横断掘削箇所② 写真及びスケッチ

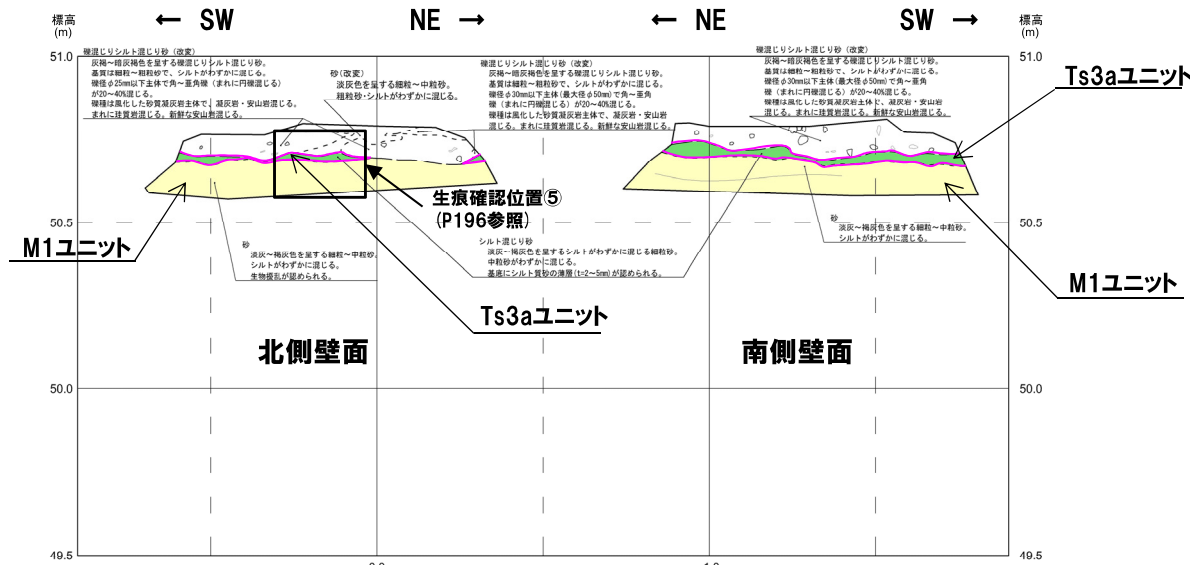
一部修正 (R2/8/7審査会合)



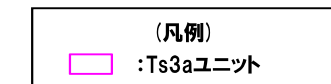
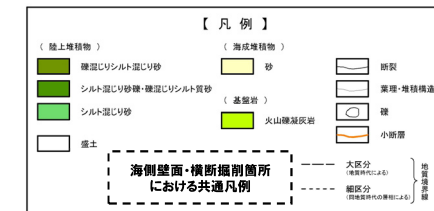
開削調査箇所(南側)横断掘削箇所② 写真



開削調査箇所(南側)平面模式図



開削調査箇所(南側)横断掘削箇所② スケッチ

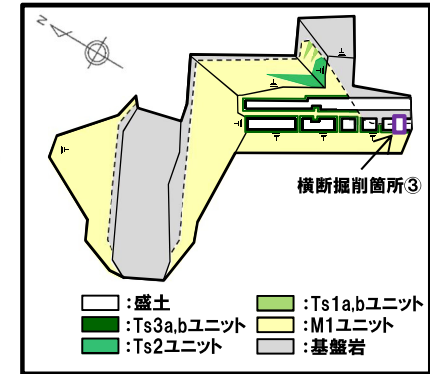
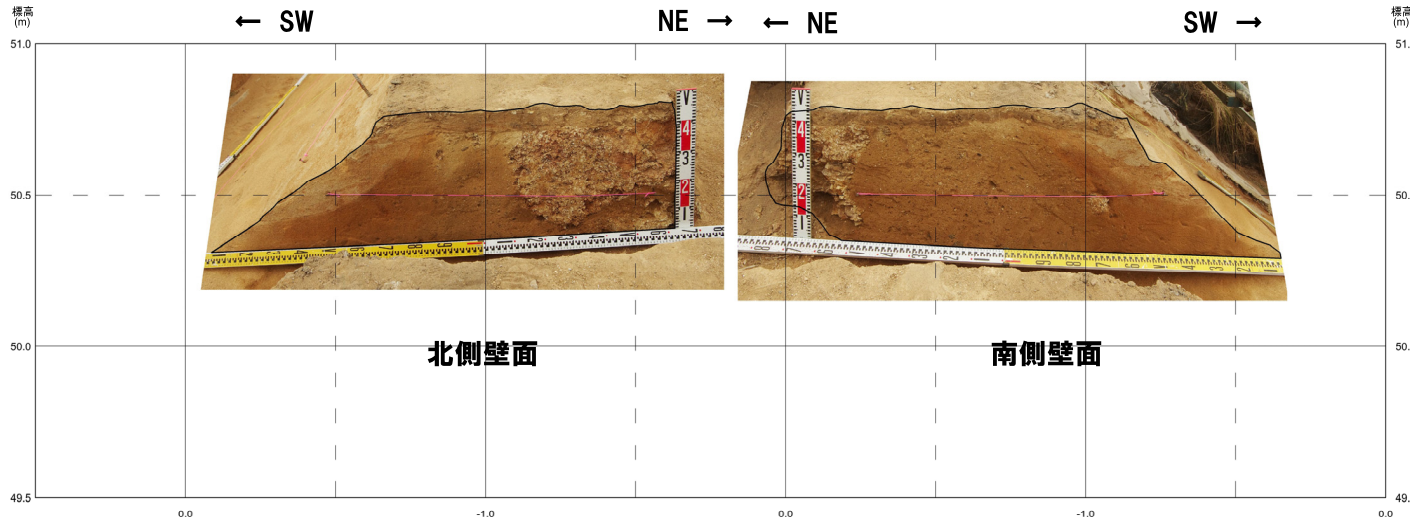




(1)地層区分及びユニット区分

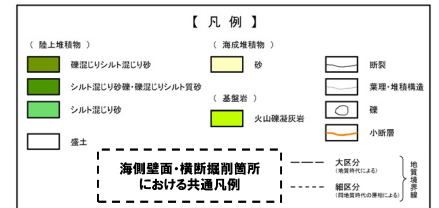
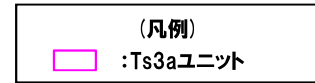
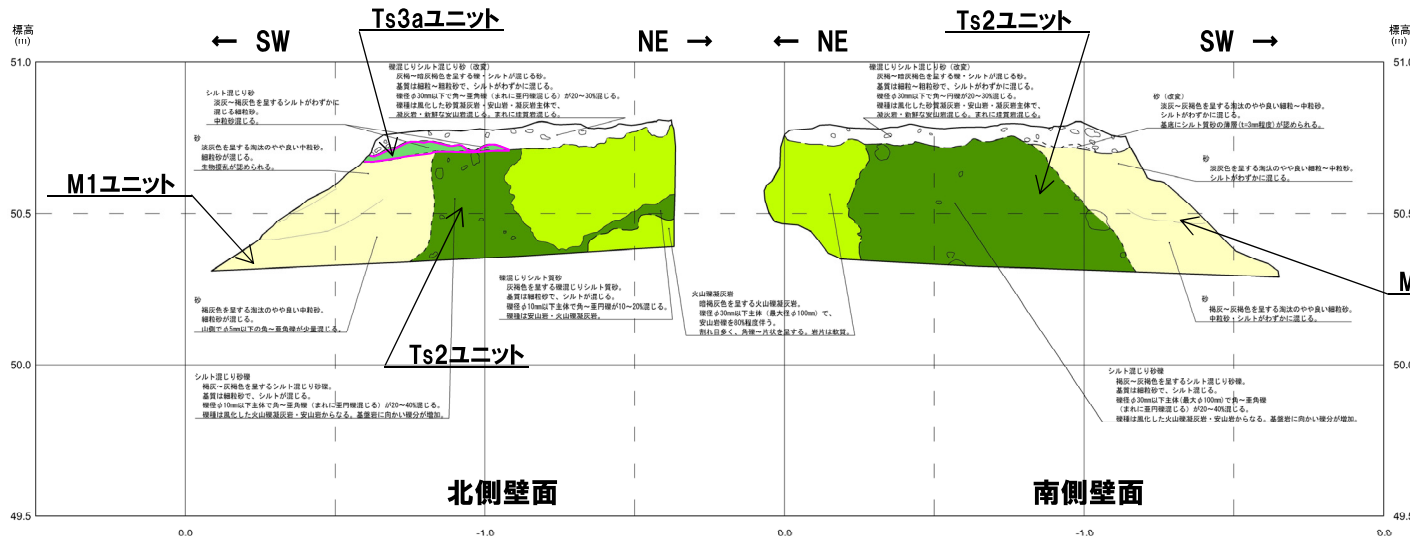
②-1 横断掘削箇所③ 写真及びスケッチ

一部修正 (R2/8/7審査会合)



開削調査箇所(南側)平面模式図

開削調査箇所(南側)横断掘削箇所③ 写真

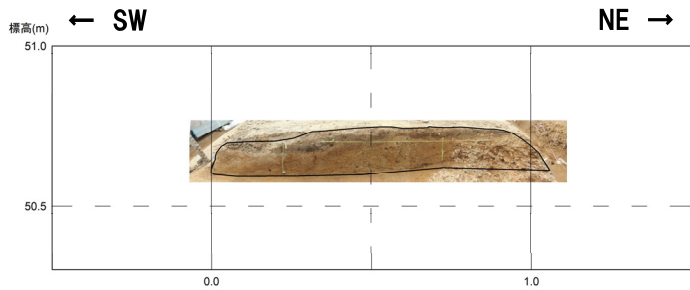


開削調査箇所(南側)横断掘削箇所③ スケッチ

(1)地層区分及びユニット区分

②-1 横断掘削箇所④ 写真及びスケッチ

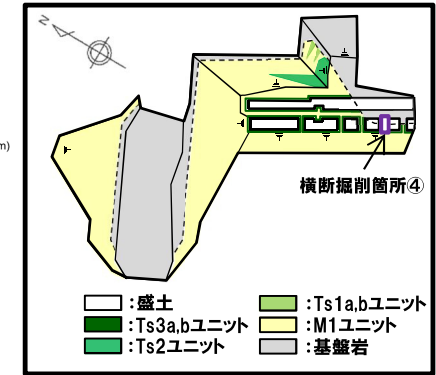
一部修正 (R3/2/12審査会合)



北側壁面

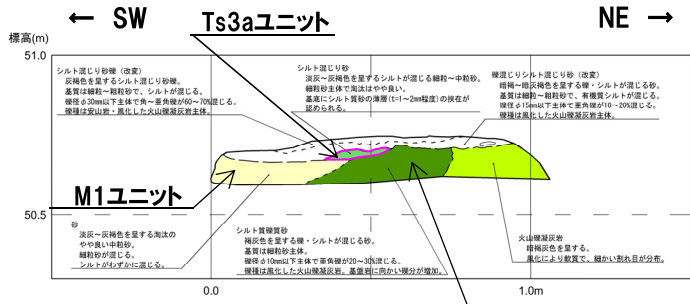


南側壁面

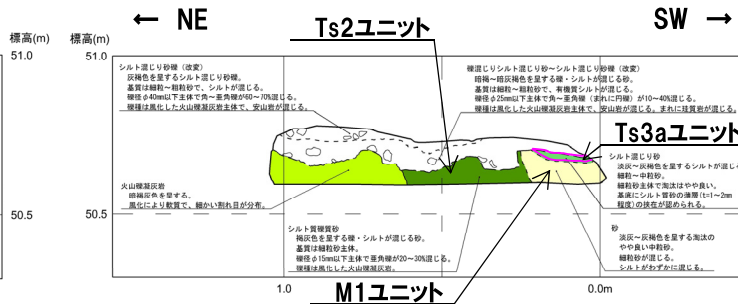


開削調査箇所(南側)平面模式図

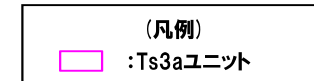
開削調査箇所(南側)横断掘削箇所④ 写真



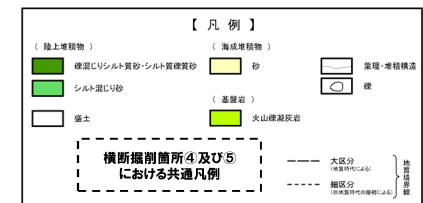
北側壁面



南側壁面



開削調査箇所(南側)横断掘削箇所④ スケッチ



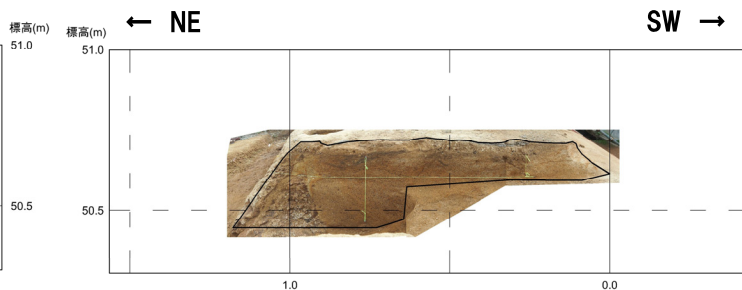
(1)地層区分及びユニット区分

②-1 横断掘削箇所⑤ 写真及びスケッチ

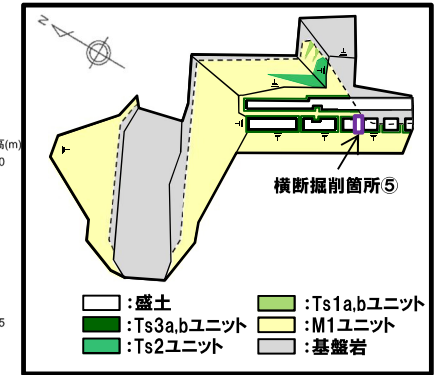
一部修正 (R3/2/12審査会合)



北側壁面

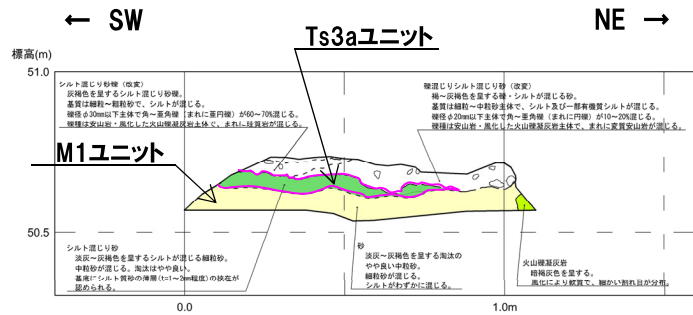


南側壁面

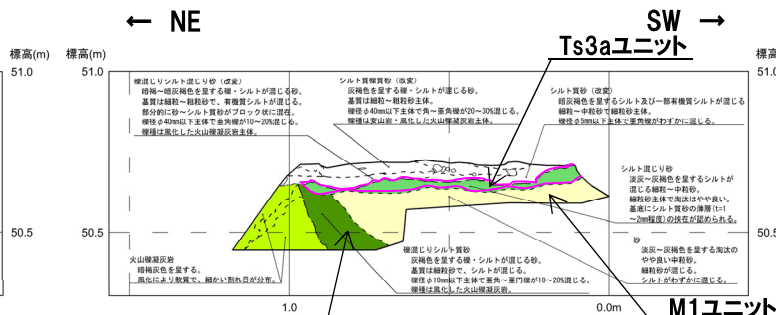


開削調査箇所(南側)平面模式図

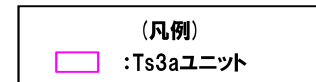
開削調査箇所(南側)横断掘削箇所⑤ 写真



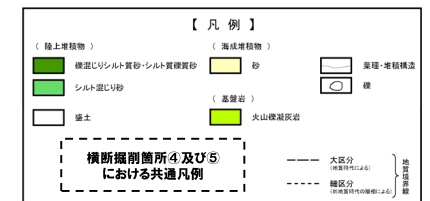
北側壁面



南側壁面



開削調査箇所(南側)横断掘削箇所⑤ スケッチ

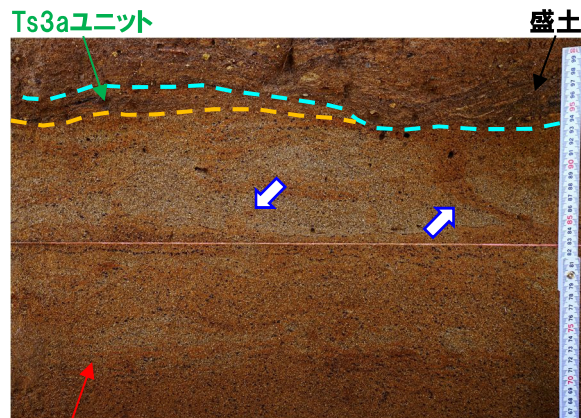




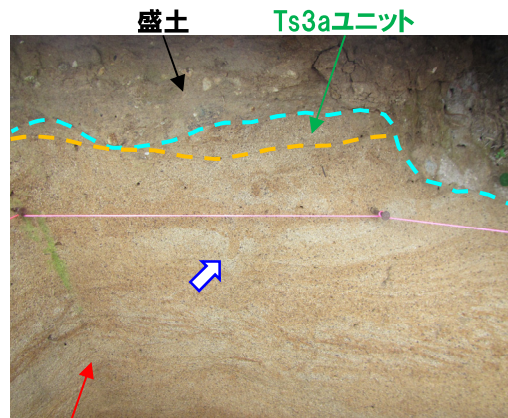
## (1)地層区分及びユニット区分

## ②-1 生痕確認(1/2)

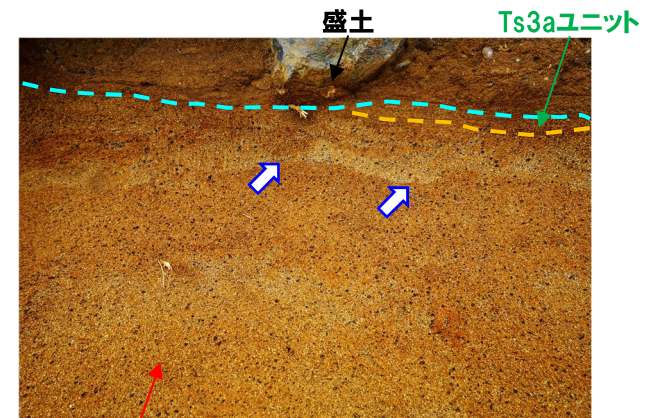
- 開削調査箇所(南側)南側壁面の背後法面天端付近のM1ユニット中においては、次頁に示す位置において、以下のとおり生痕を確認している。  
 ○M1ユニットは、主に細粒～中粒砂からなり、淘汰が良いこと、葉理が認められること及び生痕が認められることから、海成堆積物であると判断される。



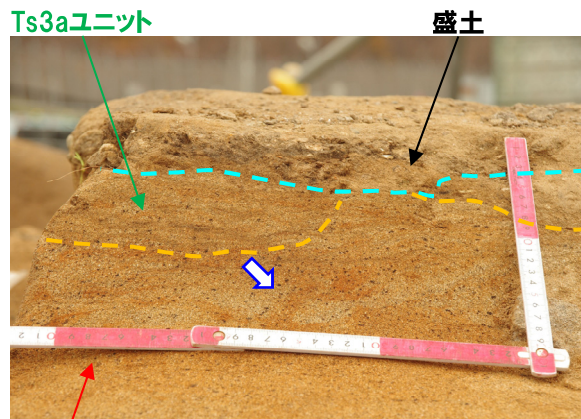
**M1ユニット**  
 生痕確認位置①(側溝設置跡(海側壁面))  
 (詳細な位置図はP183参照)



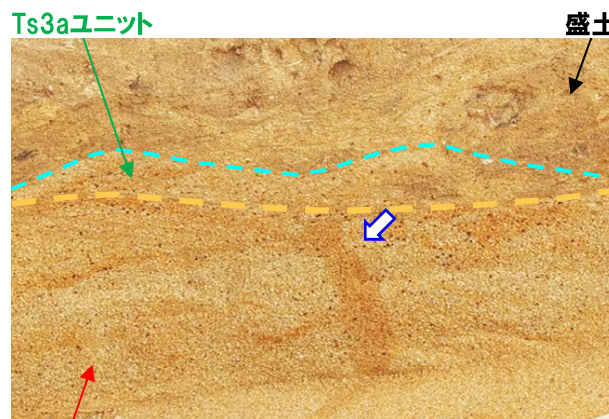
**M1ユニット**  
 生痕確認位置②(側溝設置跡(海側壁面))  
 (詳細な位置図はP183及びP184参照)



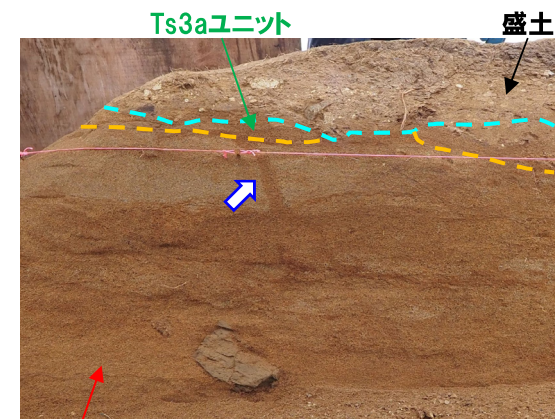
**M1ユニット**  
 生痕確認位置③(海側壁面)  
 (詳細な位置図はP188参照)



**M1ユニット**  
 生痕確認位置④(海側壁面)  
 (詳細な位置図はP189参照)



**M1ユニット**  
 生痕確認位置⑤(横断掘削箇所②(北側壁面))  
 (詳細な位置図はP192参照)

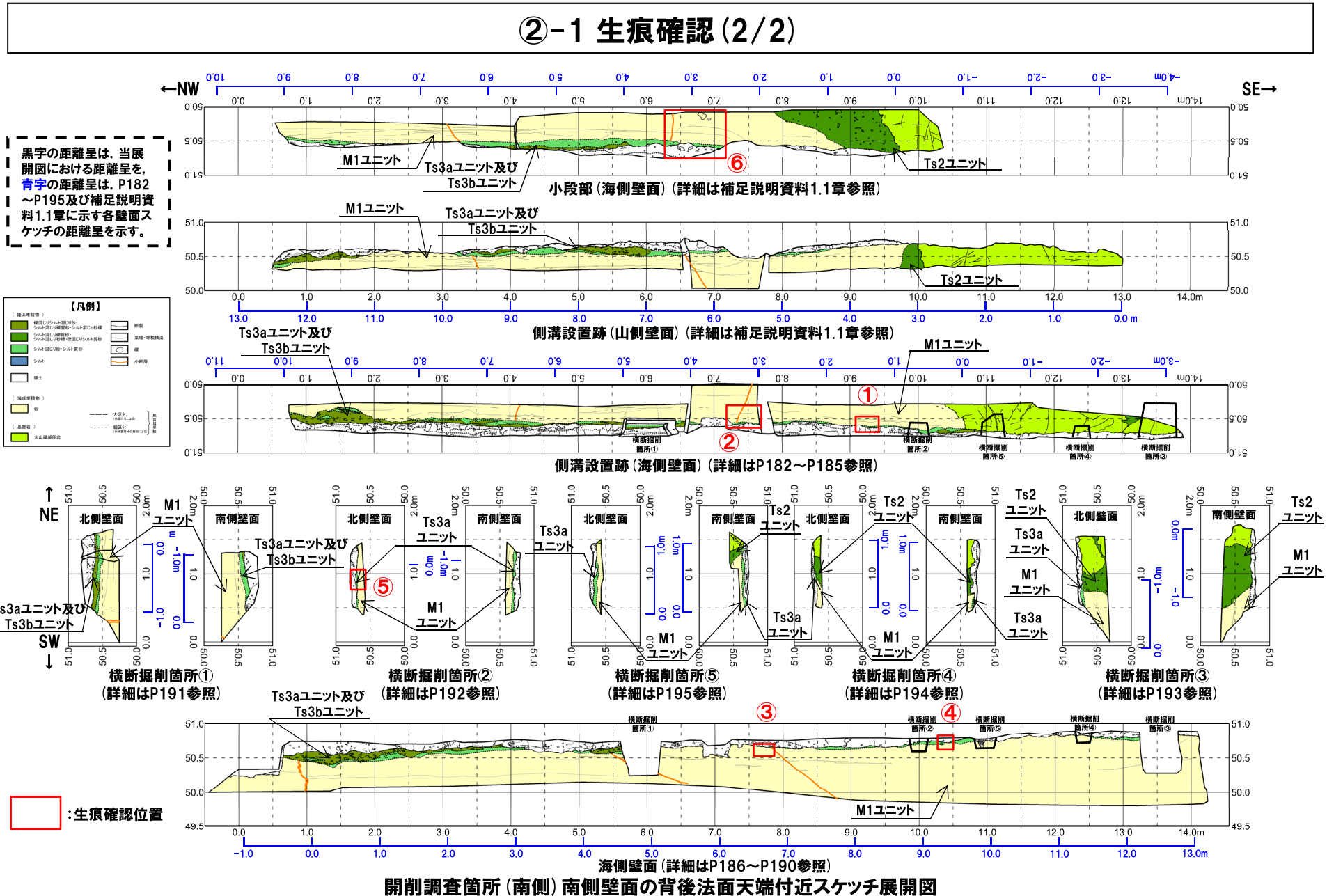


**M1ユニット**  
 生痕確認位置⑥(小段部(海側壁面))  
 (詳細な位置図は補足説明資料1.1章参照)



(1)地層区分及びユニット区分

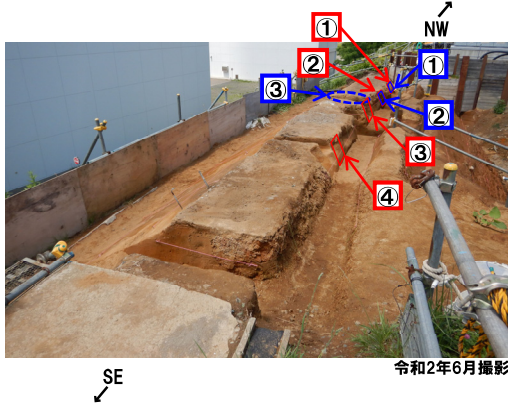
②-1 生痕確認(2/2)



(1)地層区分及びユニット区分

②-2 南側壁面の背後法面天端付近 堆積相観察-実施箇所(1/2) -

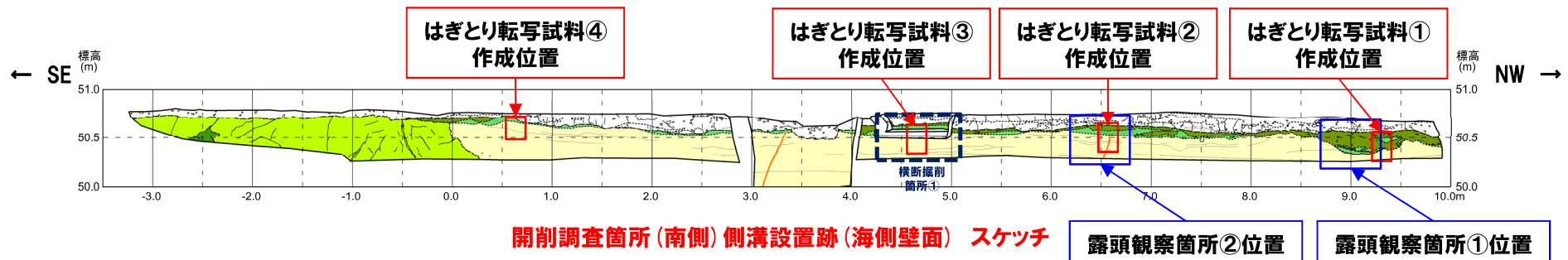
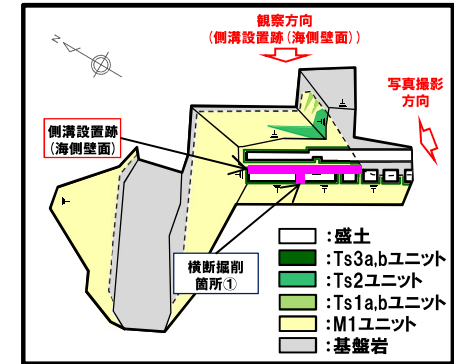
一部修正 (R2/8/7審査会合)



はぎとり転写試料作成箇所①~④

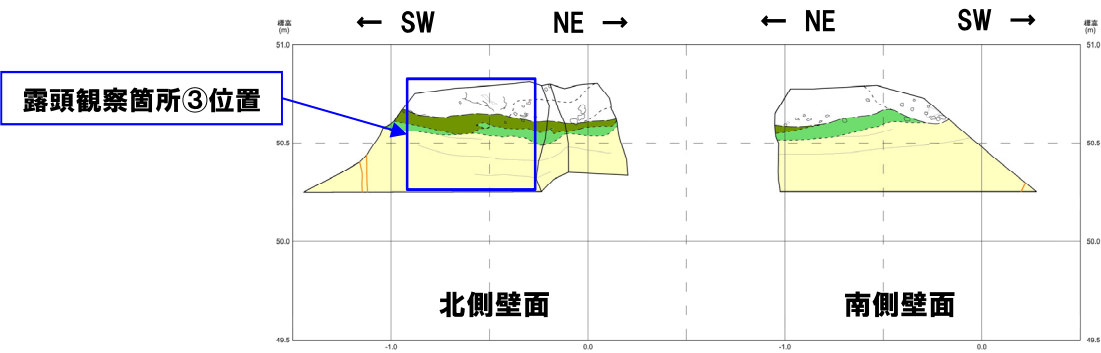
露頭観察実施箇所①~③

開削調査箇所(南側)南側壁面の背後法面天端付近位置図(山側から海側を望む)



- (凡例) 調査項目
- はぎとり転写試料作成箇所
  - 露頭観察実施箇所

- 【凡例】
- 陸上堆積物: 緑泥質シルト混じり砂・シルト質中粒砂
  - 緑泥質シルト質砂
  - シルト混じり砂・シルト質砂
  - シルト
  - 盛土
  - 海成堆積物: 砂
  - 基盤岩: 火山噴出岩
  - 断層
  - 崖壁・堆積構造
  - 溝
  - 小断層



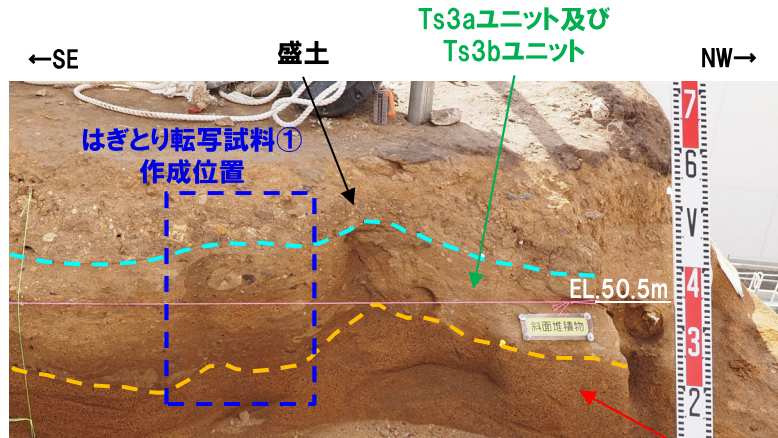
開削調査箇所(南側)横断掘削箇所① スケッチ



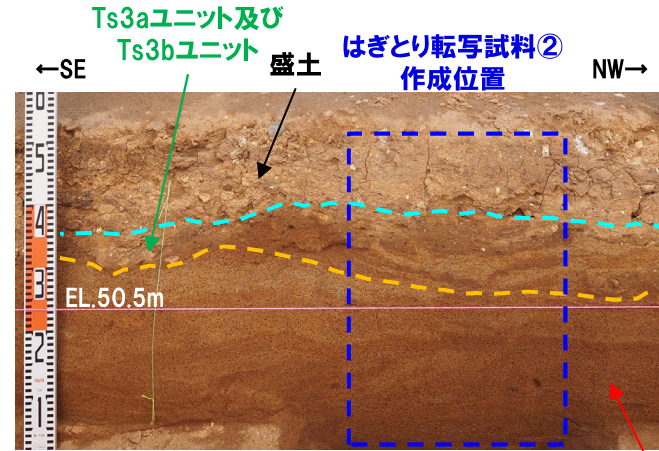
(1)地層区分及びユニット区分

②-2 南側壁面の背後法面天端付近 堆積相観察-実施箇所(2/2) -

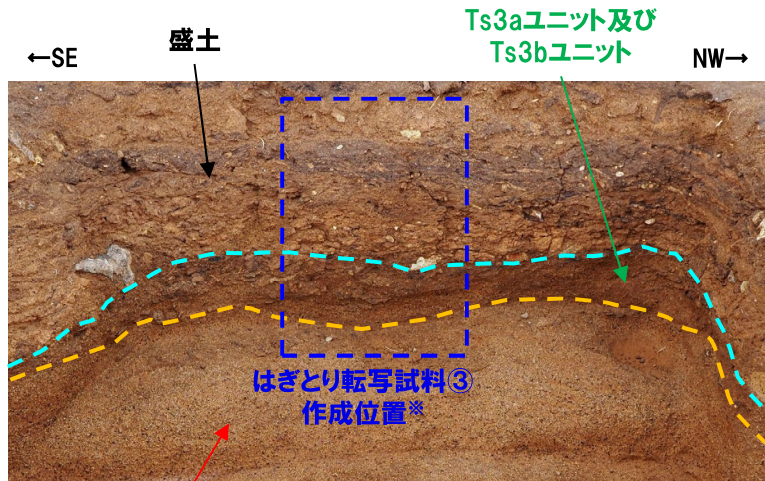
一部修正 (R2/8/7審査会合)



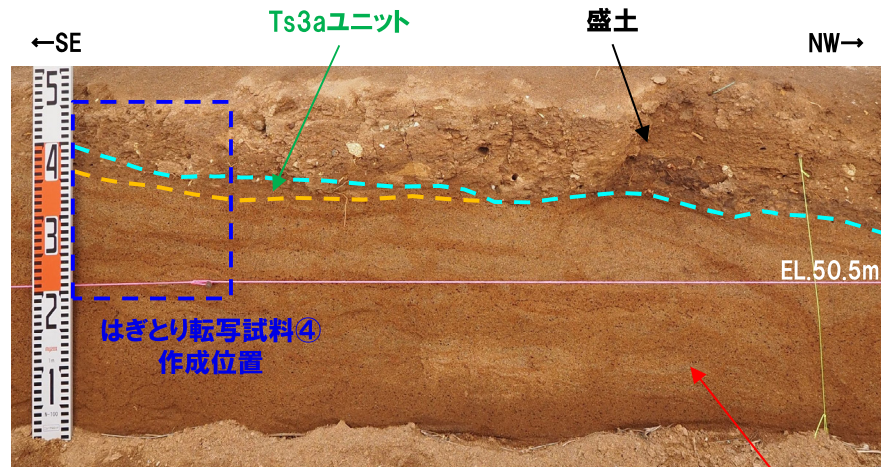
令和2年3月撮影  
はぎとり転写試料①作成位置 M1ユニット



令和2年3月撮影  
はぎとり転写試料②作成位置 M1ユニット



令和2年3月撮影  
M1ユニット  
※横断掘削箇所①の掘削時に、基底の盤下げを行った上で、はぎとり転写試料を作成した。  
はぎとり転写試料③作成位置



令和2年3月撮影  
M1ユニット  
はぎとり転写試料④作成位置

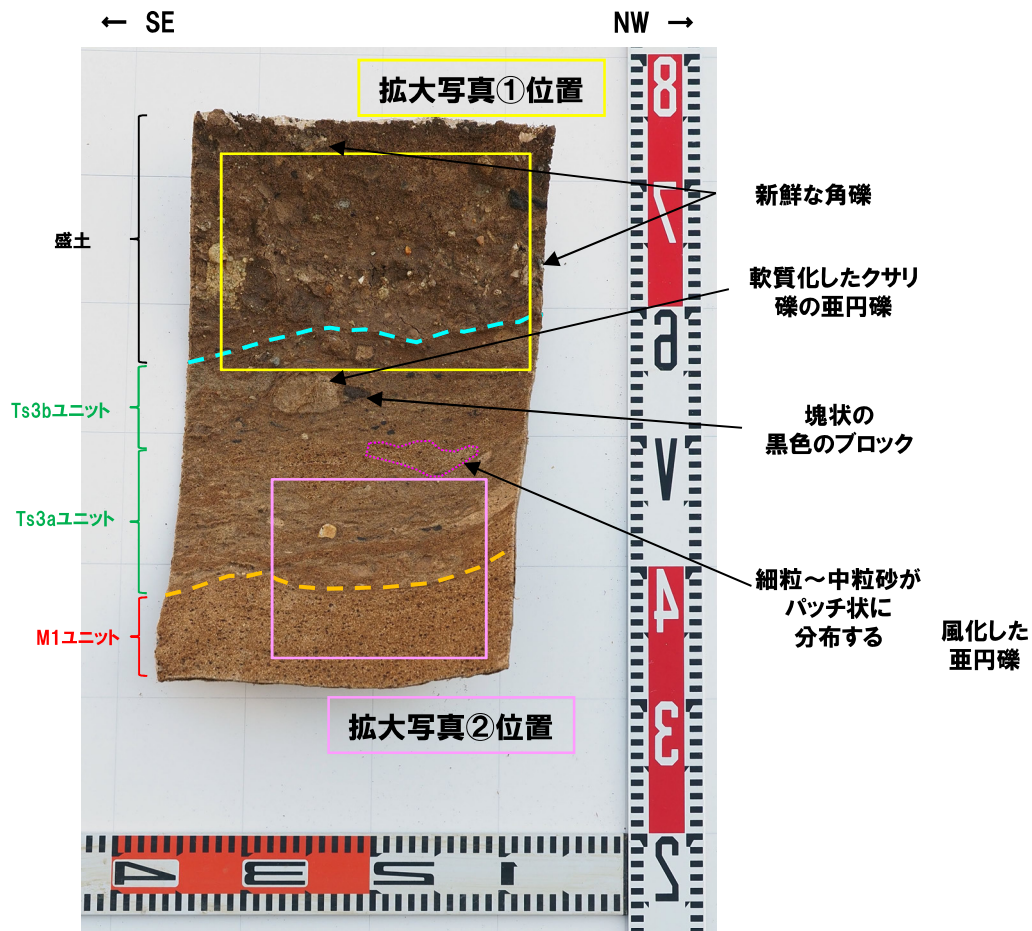


(1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料①(1/2)-

一部修正 (R2/8/7審査会合)

- M1ユニットは、明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。
- Ts3aユニットは、褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細粒～中粒砂がパッチ状に分布し、風化した亜円礫が点在する。また、シルトの偽礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。基底面は下位のM1ユニットを侵食している。
- Ts3bユニットは、暗褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、軟質化したクサリ礫の亜円礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。
- 盛土は、暗褐灰色を呈するシルト混じり礫質砂～礫混じり砂～礫混じりシルト質砂で、層相変化が著しく、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じる。

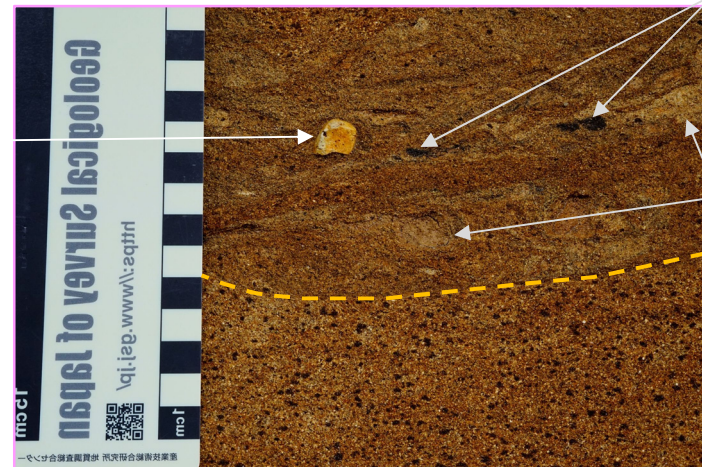


はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)

塊状の黒色のブロック



拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

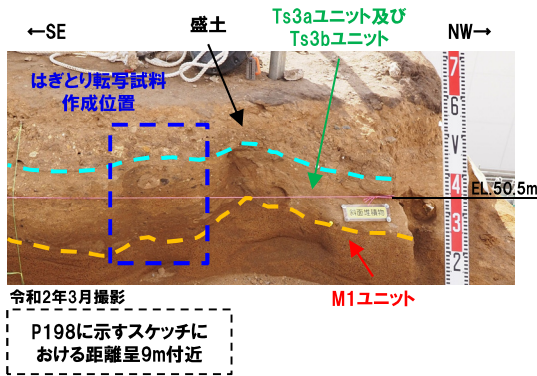
シルトの偽礫



(1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料①(2/2) -

一部修正 (R2/8/7審査会合)



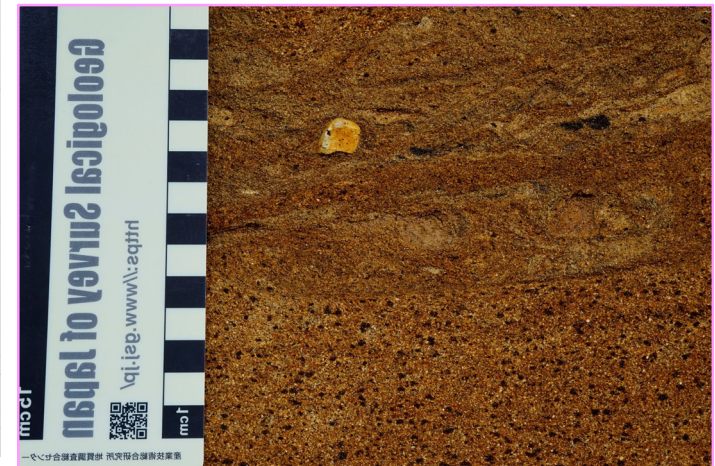
はぎとり転写試料①作成位置



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

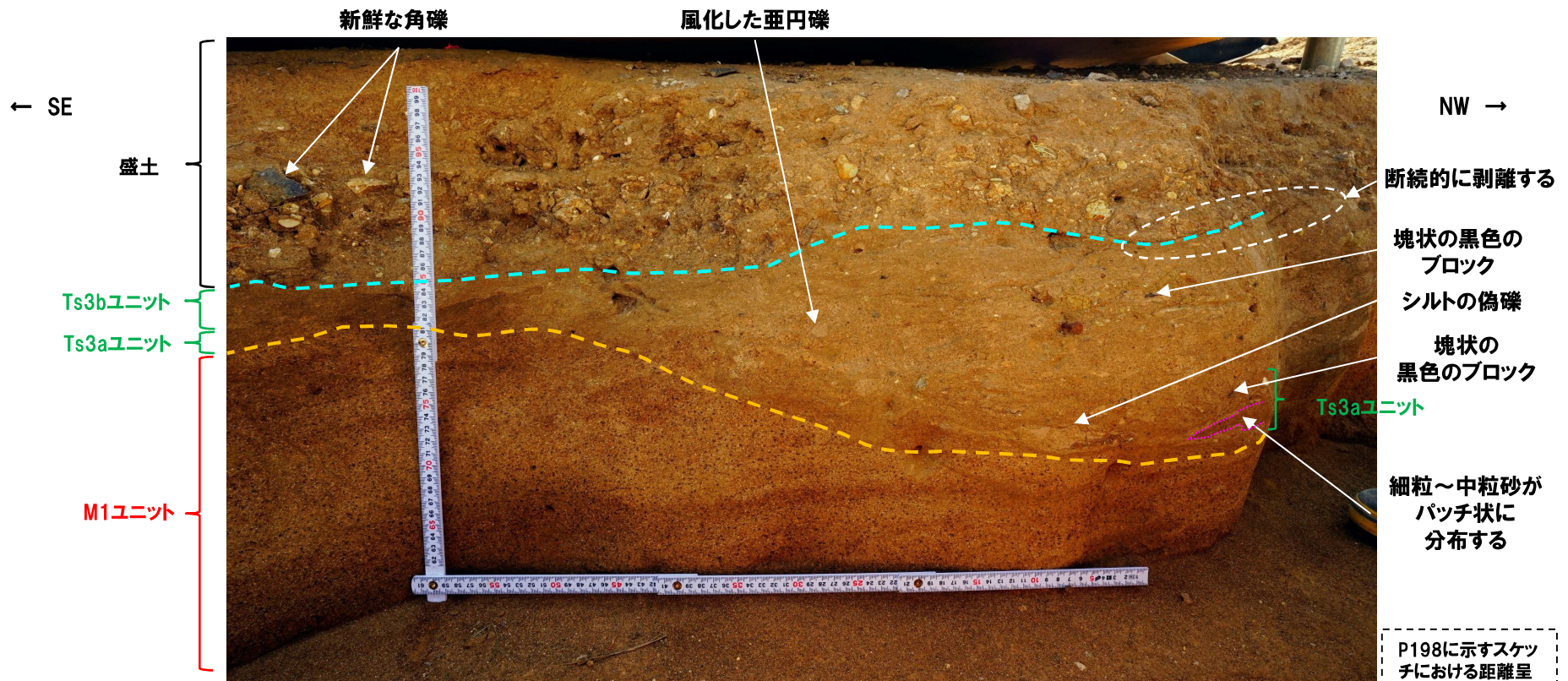


## (1)地層区分及びユニット区分

## ②-2 堆積相観察-露頭観察箇所①(1/2)-

一部修正(R2/8/7審査会合)

- M1ユニットは、明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。局部的に葉理が認められる。
- Ts3aユニットは、褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細粒～中粒砂がパッチ状に分布する。また、シルトの偽礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。基底面は下位のM1ユニットを侵食している。
- Ts3bユニットは、暗褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、風化した亜円礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。
- 盛土は、暗褐灰色を呈するシルト混じり礫質砂～礫混じり砂～礫混じりシルト質砂で、層相変化が著しく、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じり、層相の差異によりTs3bユニットとの境界は明瞭であり、その境界は断続的に剥離する。



P198に示すスケッチにおける距離呈9m付近

令和2年6月撮影

拡大写真(観察箇所①位置(解釈線あり))



## (1)地層区分及びユニット区分

## ②-2 堆積相観察-露頭観察箇所①(2/2) -

再掲(R2/8/7審査会合)



← SE



NW →

拡大写真(観察箇所①位置(解釈線なし))

令和2年6月撮影

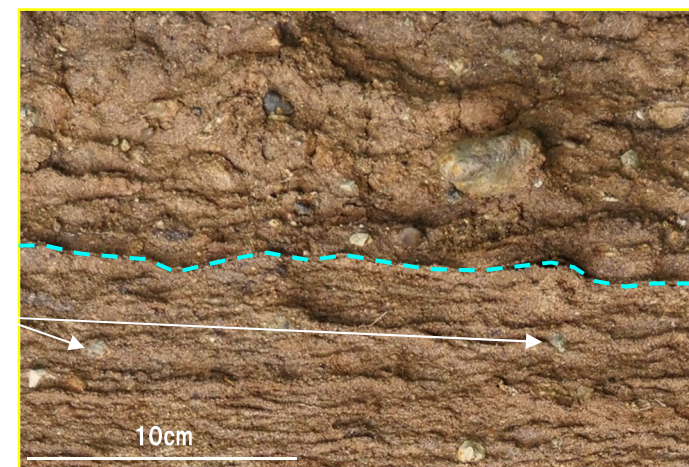
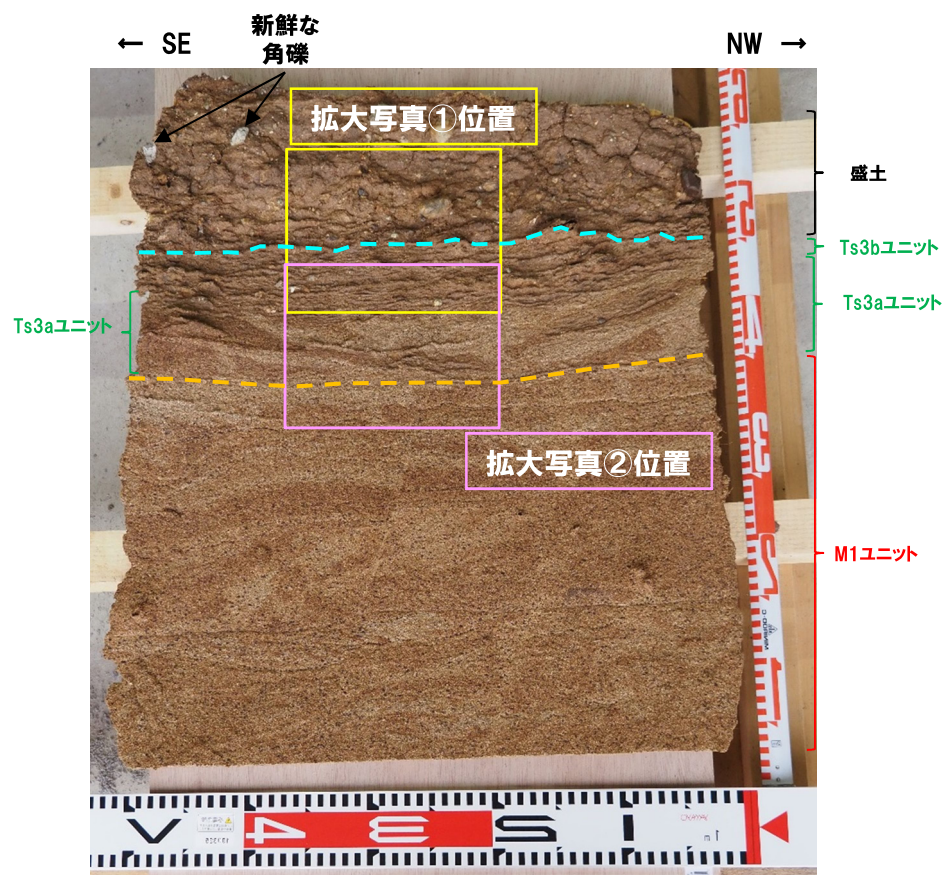


## (1)地層区分及びユニット区分

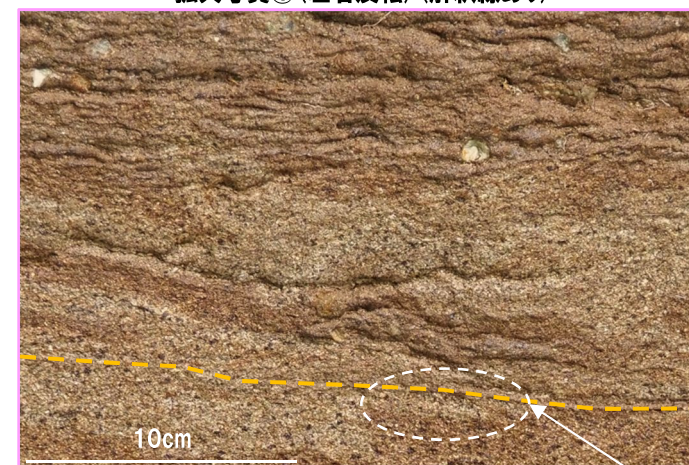
## ②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料②(1/2)-

一部修正(R2/8/7審査会合)

- M1ユニットは、明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- Ts3aユニットは、褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細かい堆積構造が認められる細粒～中粒砂からなり、局部的にシルトが認められる。また、基底面は下位のM1ユニットに認められる葉理を侵食している。
- Ts3bユニットは、褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、風化した垂円礫が混じる。
- 盛土は、暗褐灰色を呈する礫混じり砂で、新鮮な角礫が混じり、不均質な層相を示す。



拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

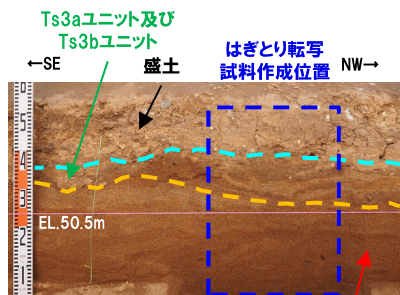
葉理を侵食している



(1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料②(2/2) -

一部修正 (R2/8/7審査会合)



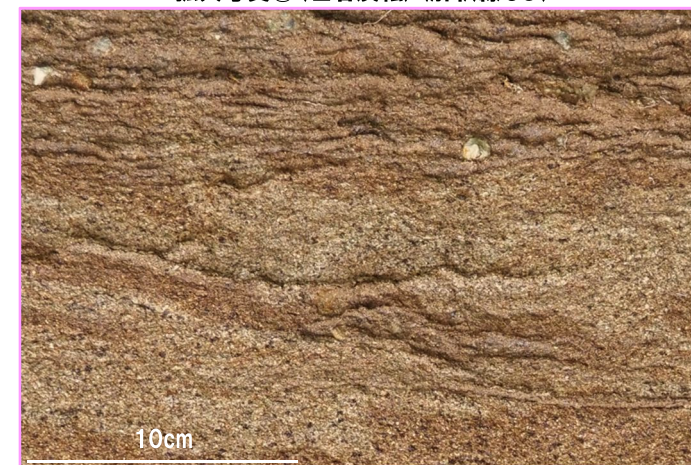
はぎとり転写試料②作成位置



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

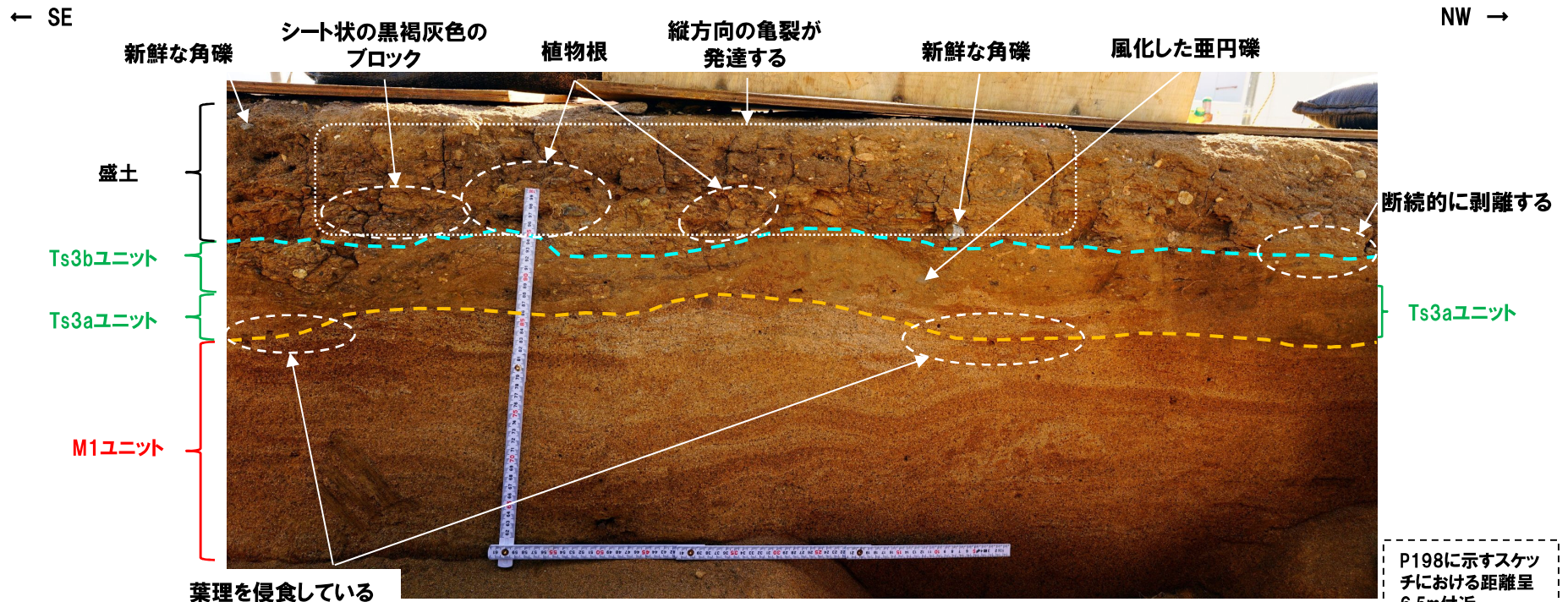


## (1)地層区分及びユニット区分

## ②-2 堆積相観察-露頭観察箇所②(1/2)-

一部修正(R2/8/7審査会合)

- M1ユニットは、明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- Ts3aユニットは、褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細かい堆積構造が認められる細粒～中粒砂からなり、局部的にシルトが認められる。また、基底面は下位のM1ユニットに認められる葉理を侵食している。
- Ts3bユニットは、褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、風化した亜円礫が認められる。
- 盛土は、暗褐灰～黒褐灰色を呈するシルト混じり礫質砂～礫混じり砂～礫混じりシルト質砂で、層相変化が著しく、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じり、Ts3ユニットに比べ植物根が多く認められる。また、基底付近にはシート状の黒褐灰色のブロックが認められ、縦方向の亀裂が発達し、層相の差異によりTs3bユニットとの境界は明瞭であり、その境界は断続的に剥離する。



拡大写真(観察箇所②位置(解釈線あり))

令和2年6月撮影

P198に示すスケッチにおける距離呈6.5m付近